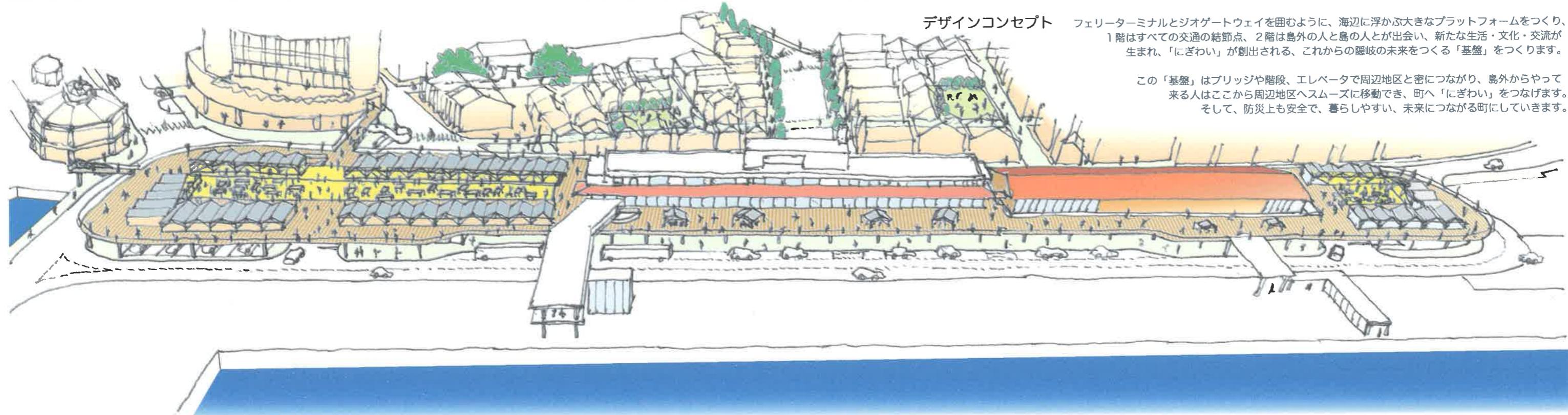


# 海のグランド プラットフォーム

人・物・交通 すべての交わる拠点であり、新たな生活・文化・交流が生まれる、「にぎわい」のパレット

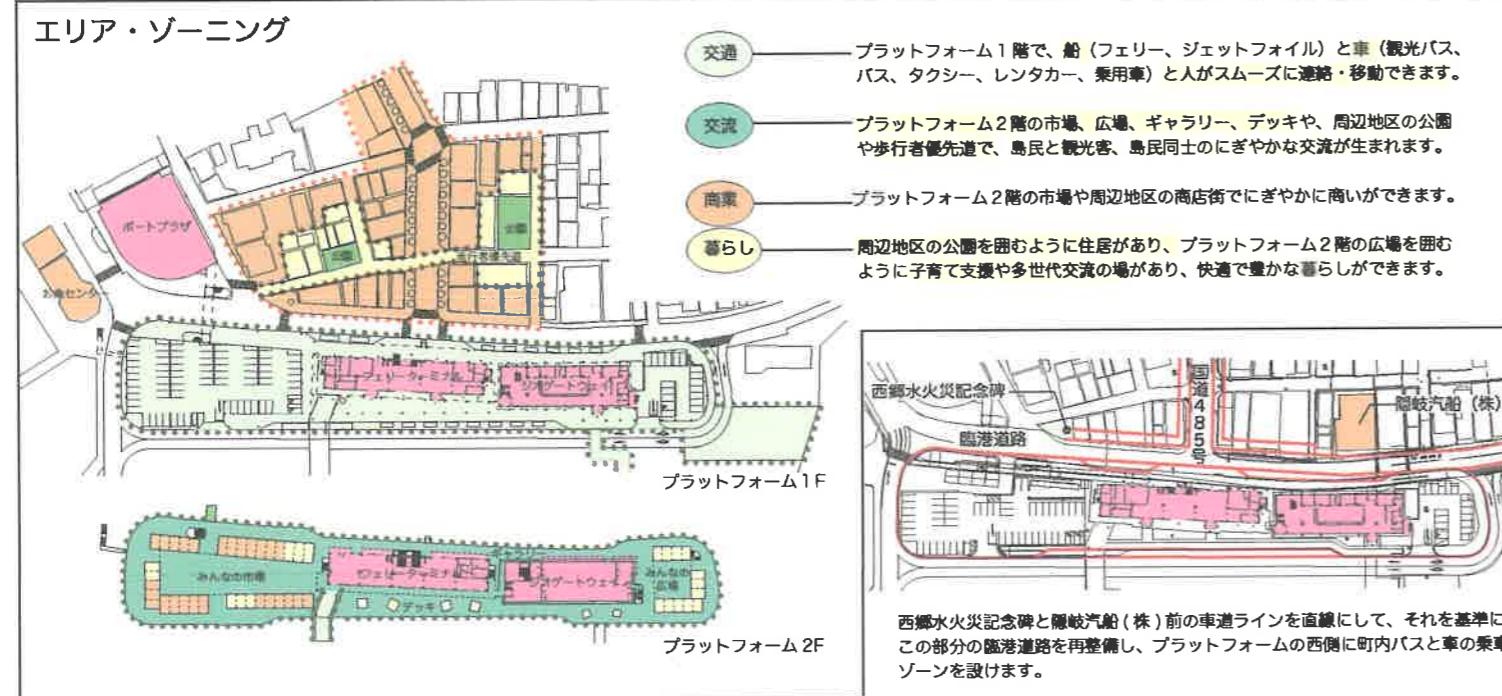


## デザインコンセプト

フェリーターミナルとジオゲートウェイを囲むように、海辺に浮かぶ大きなプラットフォームをつくり、1階はすべての交通の結節点、2階は島外の人と島の人とが出会い、新たな生活・文化・交流が生まれ、「にぎわい」が創出される、これから隠岐の未来をつくる「基盤」をつくります。

この「基盤」はブリッジや階段、エレベーターで周辺地区と密につながり、島外からやって来る人はここから周辺地区へスムーズに移動でき、町へ「にぎわい」をつなげます。そして、防災上も安全で、暮らしやすい、未来につながる町にしていきます。

## エリア・ゾーニング



## 交流機能の整備

プラットフォーム2階のみんなの市場、ギャラリー、デッキでは、島外からやって来る人と島民とが出会い、「にぎわい」が生まれます。また、みんなの広場では島民同士で子育ての相談や多世代交流ができ、和気あいあいになります。

周辺地区的公園や歩行者優先道では、島民や観光客が散歩や休憩をしながら、ゆったりした静かな心の交流ができます。

## 商業機能の整備

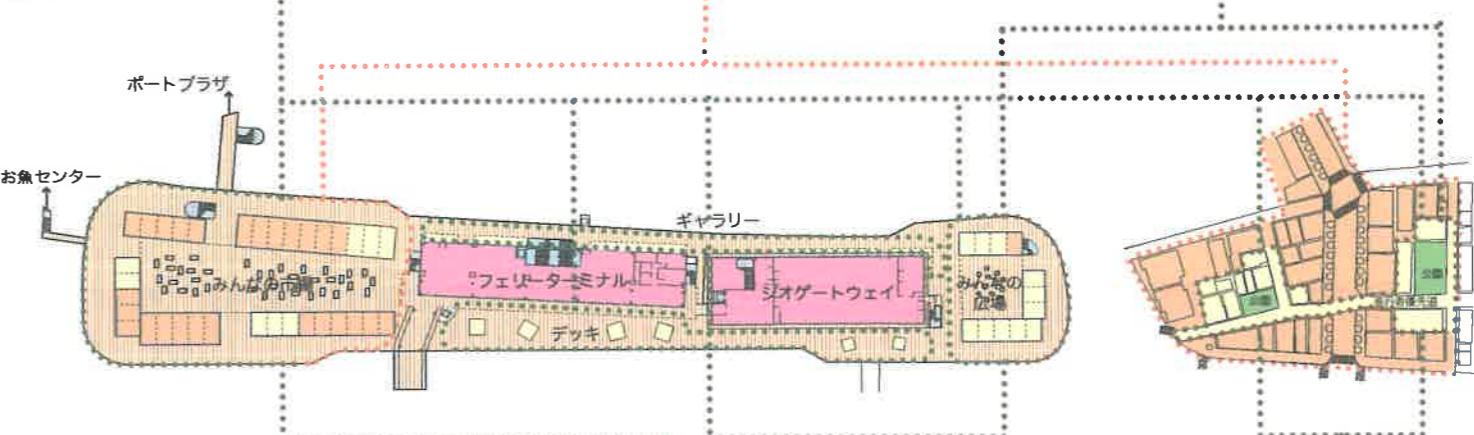
プラットフォーム2階のみんなの市場は、「あんき市場」などの隠岐の島の特産品や土産物、料理が並ぶフードコートで、中央にはテーブルや椅子が並び、テントで覆われ、食事や休憩をしながら楽しく過ごせ、観光客や島民でにぎわいます。

国道485号を挟む周辺地区的商店街も、歩道の拡幅や街路樹を植えて、人が歩きやすく買物しやすい環境に整備し、ラフカディオ・ハーンを重ねた往時の繁栄を取り戻します。

## 暮らし機能の整備

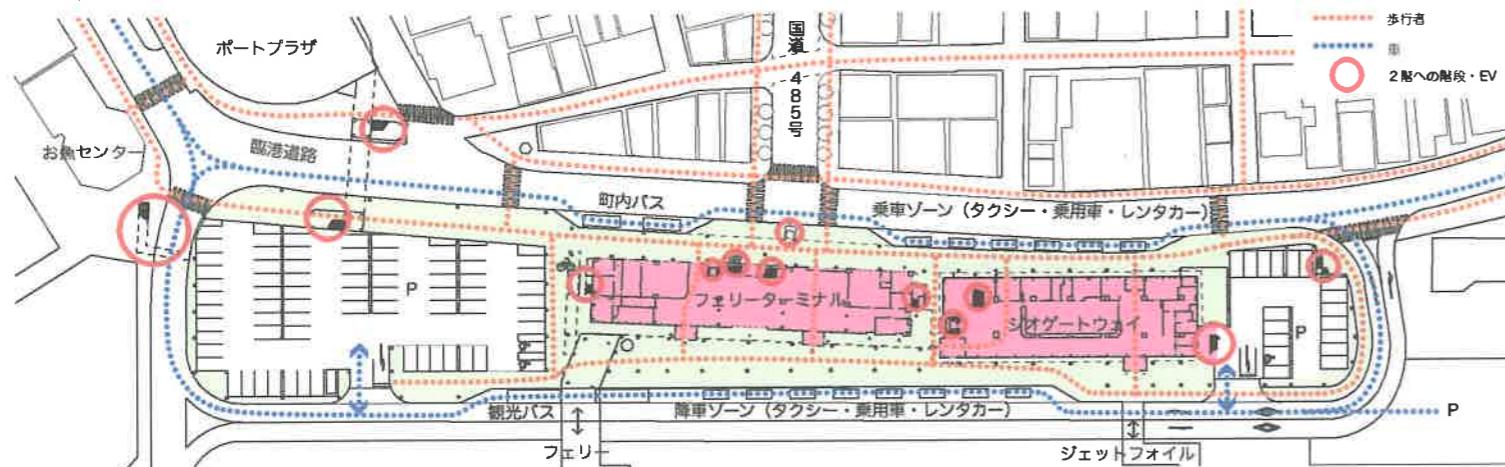
プラットフォーム2階のみんなの広場は、子育て支援や多世代交流の場で、中央はテントで覆われ、子どもが遊ぶ姿を見ながら休憩や会話ができる、ゆったりした時間を過ごせます。

住居ゾーンは周辺地区的内側の公園を囲むような場所にあり、いつでも公園で休息や会話ができる、快適で、孤独にならずに暮らせます。そこから歩行者優先道を伝って買物にも安全に行けます。



## 交通機能の整備

プラットフォーム1階を人と車がスムーズに連絡・移動できるようにします。2階への階段・EVも多く設け、どこからも容易に行けるようにします。



## 既存施設との連携

プラットフォームとフェリーターミナル、ジオゲートウェイとは、1階はそのまま、2階はデッキでつながっているので、連携はとてもスムーズです。

ポートプラザとつながるスカイブリッジは残すので、従来通り2階で連携します。

お魚センターとはブリッジ階段や横断歩道で連携します。

プラットフォーム内は（左図のように）多くの階段・EVで1、2階がつながっているので、そのまま周辺地区的既存施設や商店街と連携することができます。

## 施設の利活用と運営

### 1) みんなの市場

隠岐の特産品、土産物、料理を出すフードコートで、イベントや講習会もできます。

運営には島民有志や小中高生も参加し（子供重視のポストも設け）、チャレンジショップや1坪ショップ等も設け、島民が気軽に参加できるようになります。



### 2) みんなの広場・ギャラリー

みんなの広場は島民の子育て支援や多世代交流の場で、イベントや講習会もできます。ギャラリーは島民の描いた絵や写真、オブジェを展示し、みんなで楽しむ場です。

子どもからお年寄りまで、島民有志で話し合い、自主的な運営が期待されます。



### 3) 公園・歩行者優先道

周辺地区的内側の公園の中央にあり、生活に満足をもたらすと共に、買物や通学に安全に通えます。

公共の場ですが、住民や普段から使う人々が、清掃や維持メンテナンスに積極的に関わり、美しく保たれることができます。



# 西郷港周辺地区のデザイン

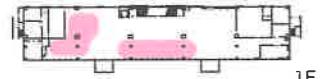
プラットフォームで生まれた「にぎわい」を周辺地区へつなげ、暮らしやすい町、防災上も安全な町にします。

プラットフォームは隠岐の島町の新しい顔となります。

隠岐の歴史と風情を大切にしながら、これから隠岐の未来をつくる子どもたちや、多くの経験と知恵を持つお年寄りの意見に耳を傾ながら、デザインします。

## フェリーターミナルの再構築

現在のフェリーターミナルは魅力が中途半端なので、再構築してプラスアップします。



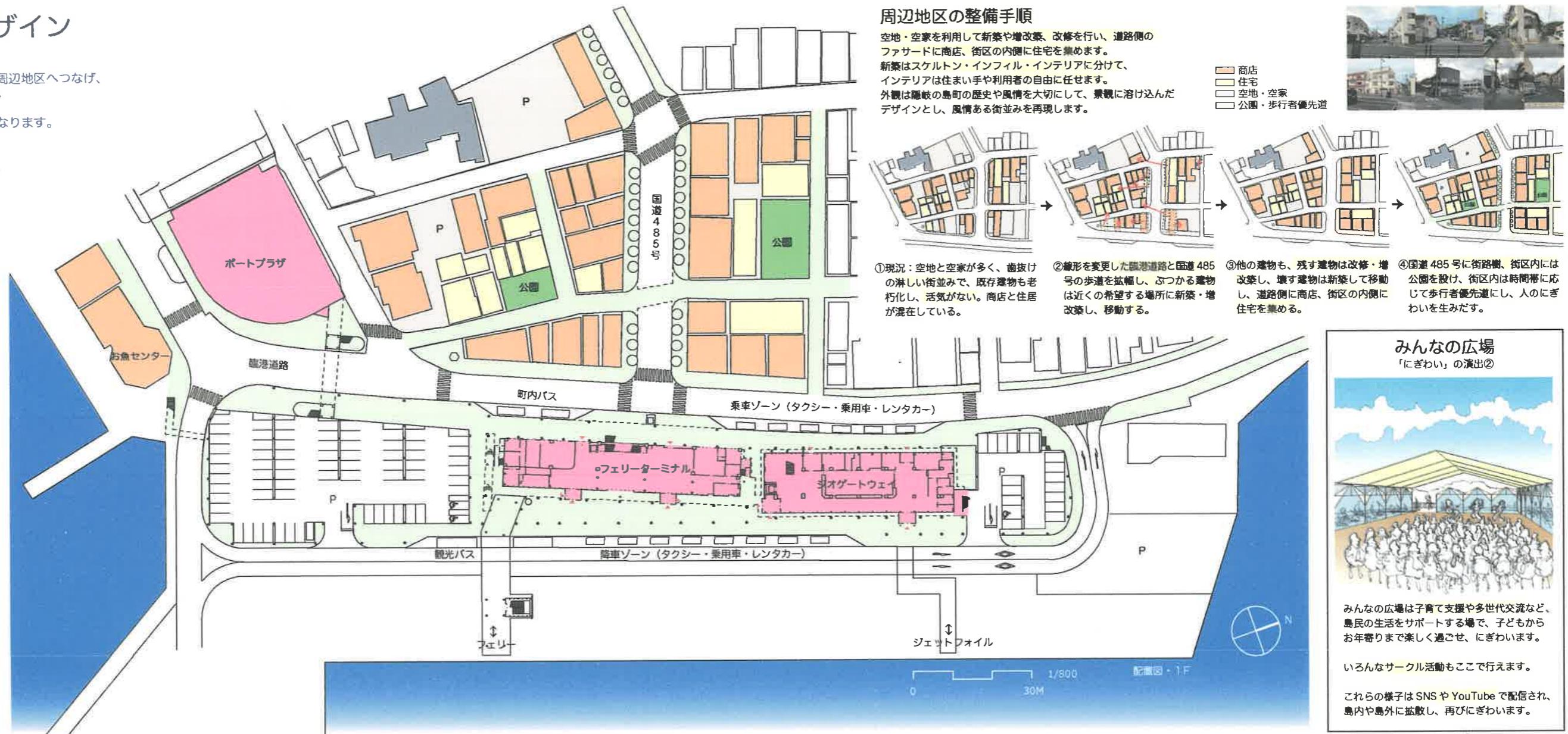
1階は待合機能を強化し、オープンカフェのようにして、外を見ながらお茶を飲んだり、気軽に会話しながら船を待てるようにします。



2階は隠岐に初めて来る人が降り立つ場所なので、壁際をギャラリーにして、写真などで隠岐を美しくプレゼンテーションします。



3階は半分を小中高生が集まり、活動や会議、学習ができる場にし、残り半分を島民や観光客のシェアオフィス・コワーキングスペースにして、災害時には逃げ遅れた人の一時避難場所に（2階も含め）なります。



## 周辺地区の整備手順

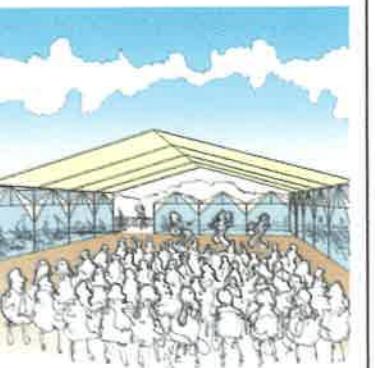
空地・空家を利用して新築や増改築、改修を行い、道路側のファサードに商店、街区の内側に住宅を集めます。

新築はスケルトン・インフィル・インテリアに分けて、インテリアは住まい手や利用者の自由に任せます。

外観は隠岐の島町の歴史や風情を大切にして、景観に溶け込んだデザインとし、風情ある街並みを再現します。

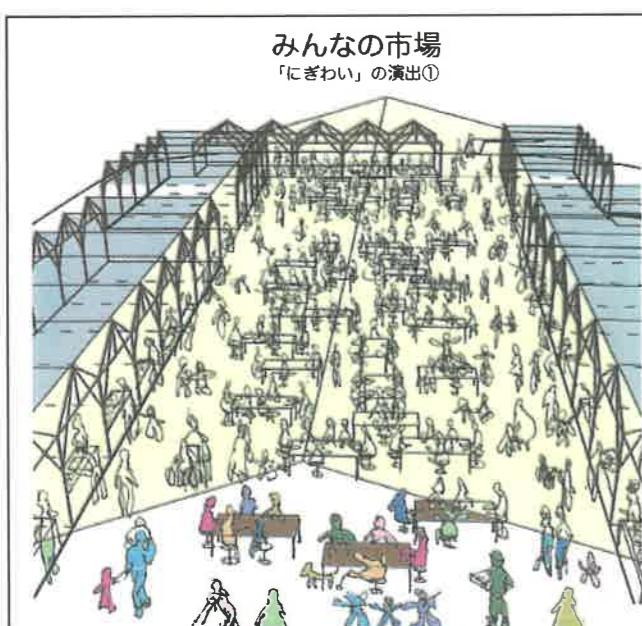
- 商店
- 住宅
- 空地・空家
- 公園・歩行者優先道

## みんなの広場 「にぎわい」の演出②



みんなの広場は子育て支援や多世代交流など、島民の生活をサポートする場で、子どもからお年寄りまで楽しく過ごせ、にぎわいます。

いろんなサークル活動もここで行えます。これらの様子はSNSやYouTubeで配信され、島内や島外に拡散し、再びにぎわいます。

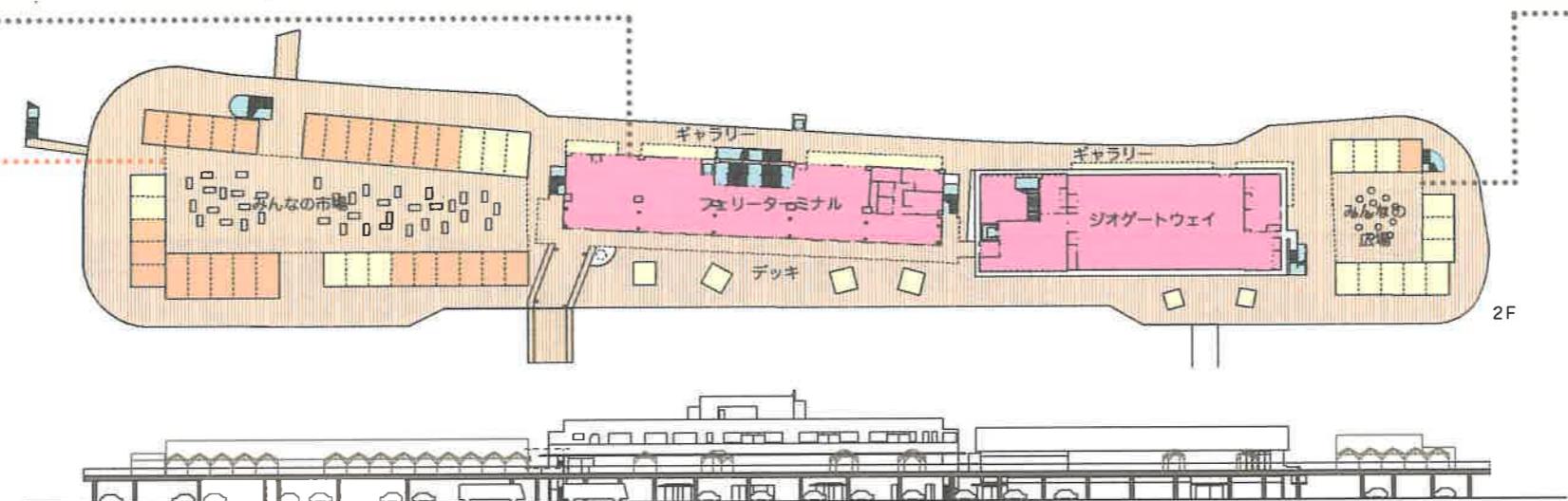


## みんなの市場 「にぎわい」の演出①

「みんなの市場」は食を中心としたフードコートのような半屋外の広場で、いつも観光客と島民で自然とにぎわっています。

フェリーから降りてきた観光客を直接ここで迎えて、歓迎のウェルカムパーティーを開いたりできます。

中央の椅子やテーブルの位置を変えると、イベントやお祭り、夜は映画や花火を催したりでき、音で盛り上がれます。



## 隠岐になじむ景観形成

### 1) プラットフォーム上の市場・広場・デッキ

西郷港周辺地区的ビューマンスケールに合わせて、「都万の舟小屋」を模した小屋群のデザインにし、港の新しいシンボルにします。



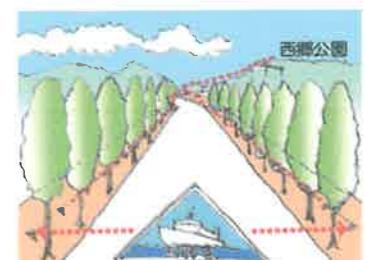
### 2) 周辺地区的商店街・住居ゾーン

宇屋川、八尾川沿いに残る、往時の風情ある雰囲気を商店街や住居ゾーンに引き継ぎ、西郷港らしさ、隠岐らしさを復活させます。



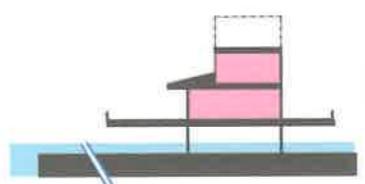
## 防災対策

### 1) 西郷公園へのわかりやすい避難経路



この地域の災害時の一時避難場所は西郷公園です。（ハザードマップによる）国道485号や臨港道路の歩道は拡幅して歩きやすくし、隠岐の名所の描かれた直角二等辺三角形のプレートを適度なピッチで歩道に打ち込みます。こうすることで、プレートの示す方向へ歩いて行けば、初めて隠岐に来た人でも災害時に自然と西郷公園まで辿り着けます。（地元の人にも有効）

### 2) 逃げ遅れた人のための対策



ハザードマップによると、この地域の浸水深の目安は1m程度ですが、逃げ遅れた人のためにフェリーターミナルの2階と3階を一時避難場所に使えるよう整備しておくと安心です。

### 3) 商店街・住居ゾーンの耐震・耐火



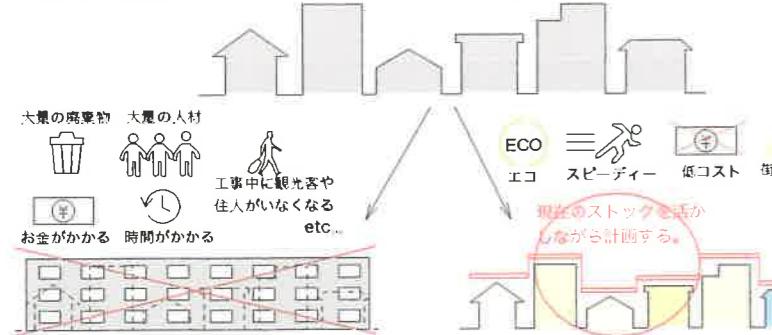
周辺地区的狭い道路は拡幅して消防車が通れるようにし、公園等で建物の間隔もあけ、延焼しにくくします。商店や住居を改修・増改築・新築する時も、現行の耐震基準や耐火基準に合った町並みにすることで、安心して暮らせます。

道のヤネ  
歩行者専用エリア  
人の動線  
車の動線



## 01 最小限の操作で最大限にぎわいをつくる

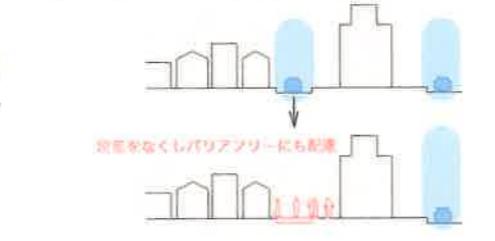
(景観) (実現性) (設計趣旨)  
建築物を取壊し、新しい建築物に建て替えるというスクラップアンドビルのまちづくりは前時代の代表的なまちづくりの方法論でした。しかし、お金がかかる、時間がかかる、多くの人が必要、廃棄物が多く出る、工事中に住人や観光客がいなくなる等の理由から現代においては経済的にも社会的にも環境的にも認められ難くなっています。  
そこで、既存の街並みや建物をできるだけ活かすことで、実現可能性が高く、低成本・低リスク・エコロジカルに・スピーディーに計画することが可能になります。また既存の街並みを生かすことは島の景観を最低限維持することにつながり、長年この島で生活や商いをしてきた住民のアイデンティティを守りながら計画することが可能です。



## 02 歩車分離によるにぎわいの集約と動線の効率化

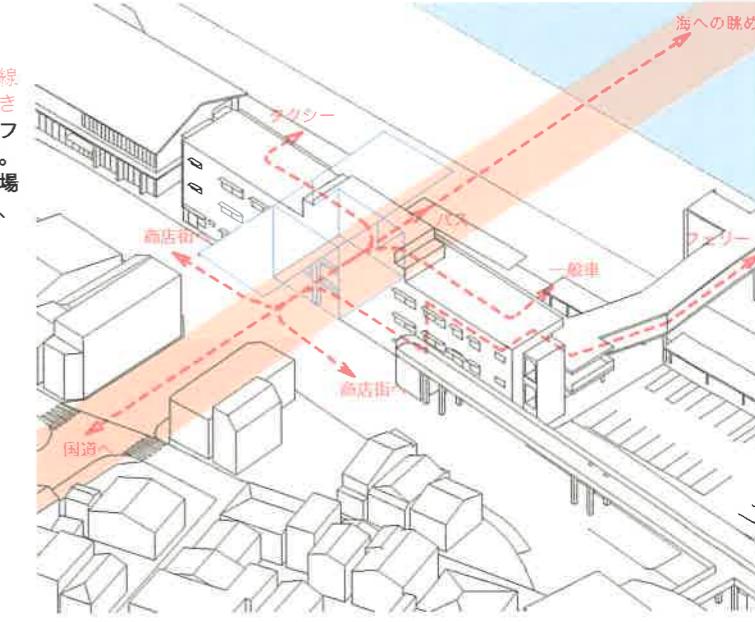
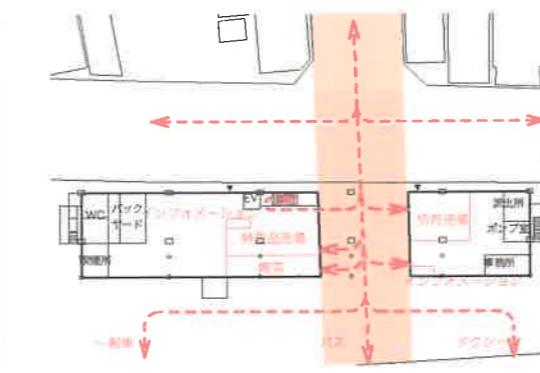
(交通) (交流) (各機能の連携)  
臨港道路、国道の一部を歩行者専用エリアに変更することで明快な歩車分離を図ります。  
バス・タクシー・レンタカー・一般車の動線をフェリーターミナルの東側にまとめ、分かりやすく、小面積で効率的な乗換空間とします。駐車場は駐車台数を確保するために、適切な位置に配置する計画とします。

歩行者専用エリアは段差をなくしたユニバーサルデザインとすることで、にぎやかな歩行空間となります。歩行空間となったことで、主要な施設は互いに行き来しやすくなることから、つながりを持ち、各機能の連携を深めることができます。



## 03 まちから海への軸線を通す

(交通) (景観) (各機能の連携)  
フェリーターミナルをリノベーションし、まちから海への動線と視線を通すことで、海とまちのつながりを感じることができます。景観を構成するとともに、乗換空間・歩行者専用エリア・フェリー乗場・国道への効率的で分かりやすい動線となります。リノベーションした穴に面して、切符売場・喫茶・特産品売場・インフォメーション機能を設けることで、視認性が高まり、高い利用率を見込むことが可能です。



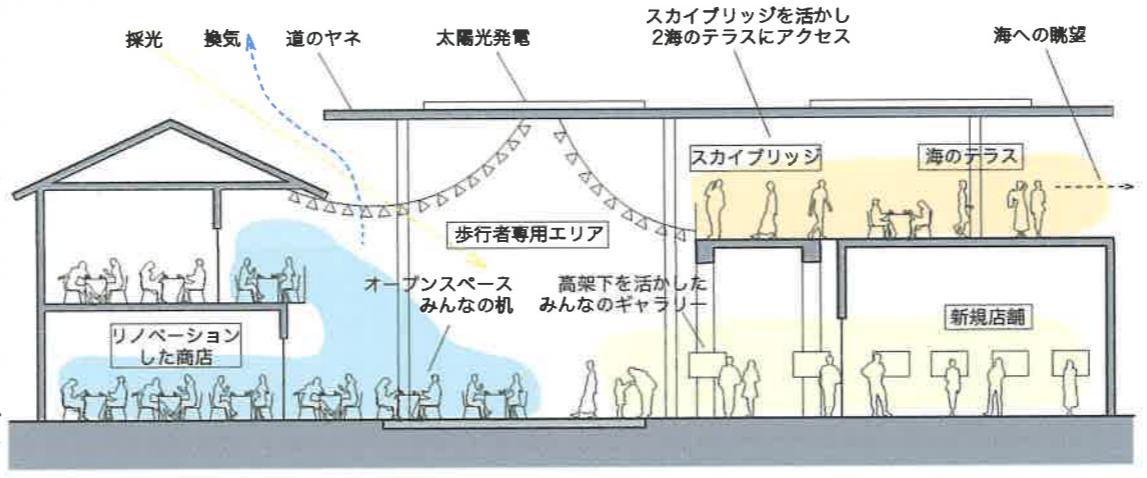
## 04 道を交流空間にする「道のヤネ」

(交流) (にぎわいの演出) (各機能の連携)  
歩行者専用エリアになった臨港道路と国道に対して屋根をかけアーケード化することで、フェリーターミナル・ジオゲートウェイ・商店・住宅・ポートプラザ・お魚センターなどの歩行者専用エリアに面する建築物をひとまとめに捉えられるように計画します。屋根の下の半屋外空間は人々が滞留できる空間として整備することで、交流空間として活用します。歩行者専用エリアに面している空き地にも屋根をかけ、交流空間のオープンスペースとして活用することで、空き地を有効活用できます。中高生や子育て世代、高齢者の方、観光客、帰省客、ビジネス客など多種多様な人々が交流し、くつろぎ滞在することが可能となるように整備していきます。



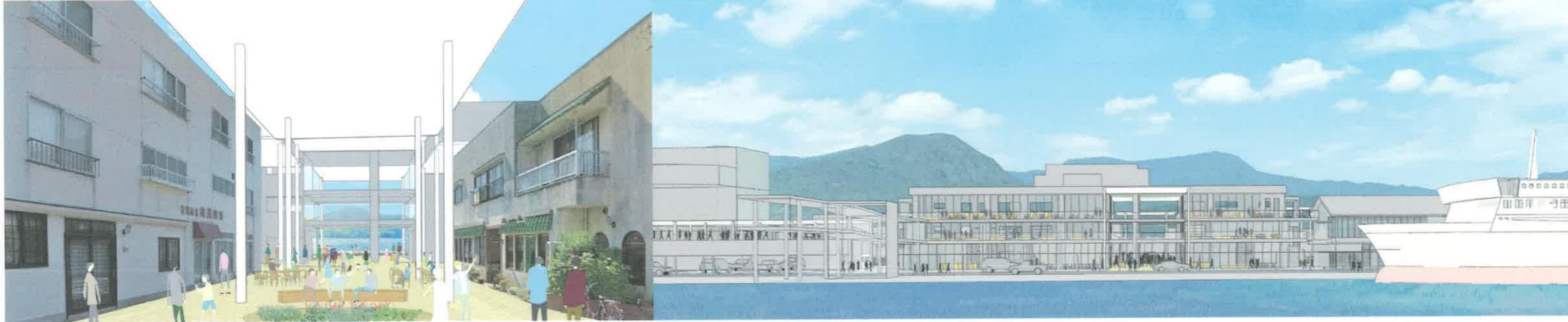
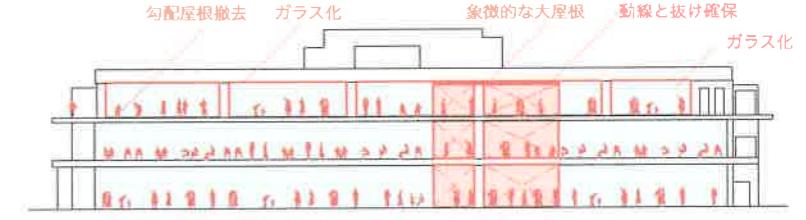
## 05 歩行者専用エリアへにぎやかさのあふれ出し

(にぎわいの演出) (交流) (商業)  
様々な店舗や公共施設の機能に連動して歩行者専用エリアへ様々なアクティビティがあふれ出すことでにぎやかな通りとなります。最低限の歩行空間は確保し、その他の空間をオープンスペースとして活用することで飲食が可能なスペース・休憩スペース・ギャラリー・図書室等となり、様々な人々がくつろぎ、滞留可能な場となります。多くのにぎわいがみられることで店舗の売上げにも繋がっていきます。



## 06 透明化したターミナルがフェリーお迎えする

(景観) (交流)  
フェリーターミナルを玄関口にふさわしい「顔」となる景観に改修します。勾配屋根等の撤去・3階外壁のガラス化・2階外壁のガラス化を行うことで、透明性の高いフェリーターミナルを計画します。内部のアクティビティや、国道への抜けがフェリーから見えることで、人のアクティビティが可視化され賑やかな立面がフェリーをお迎えする象徴的なターミナルとなります。



## 07 ゾーニング

(ゾーニング図) (商業) (暮らし) (実現性)  
商店や住宅は既存ストックを活かした立地としていることで、現在営業中の商店が持続・居住者の生活が維持できるような計画とします。

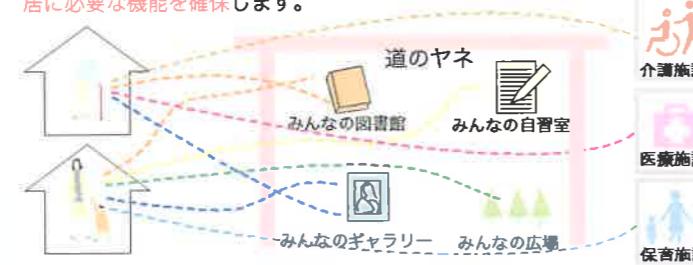
新規出店可能な商業部分は、交流空間に面して配置することでにぎわいに寄与できるよう考慮しました。島町の文化や歴史に触れる施設、中高生のための学習施設、島の食文化を楽しみながら交流できる施設等を整備します。

新たに居住を希望する人に対しては、空き家のストックを耐震補強を考慮しつつ、リノベーションすることで、まちの景観を維持しながら居住やすい空間を整えます。



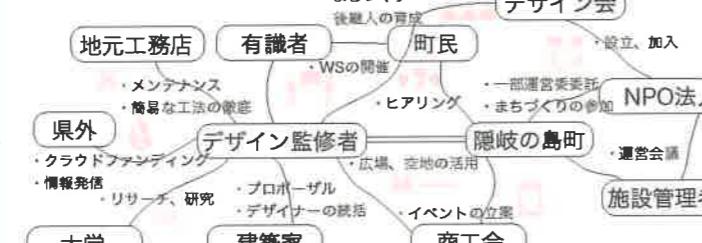
## 08 子育て世代や高齢者が暮らしやすい街へ

(暮らし) (商業)  
交流空間のオープンスペースに、みんなの図書室・みんなの自習室・みんなの広場・みんなのギャラリーなど、子どもや子育て世代、高齢者、中高生など島町に住んでいる様々な世代の人々が楽しめる空間を計画します。様々な機能が大屋根の下にあることで、2時間以上滞留可能な空間を計画します。また、介護施設や医療施設、保育施設などの施設を新たに計画し、住居に必要な機能を確保します。



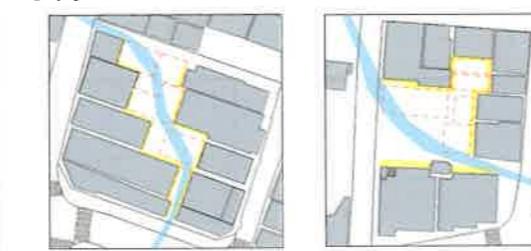
## 09 「よそもの」が中心となって仕掛ける

(施設の利活用・運営)  
地域活性化ではよそ者・馬鹿者・若者が大切と言われますが、「よそ者」であるデザイン監修者が客観的・主体的に利活用や運営にも積極的に介入していきます。デザイン会の設立、WSの開催、大学を招いたリサーチ、クラウドファンディングなど施設が有益に活用されるよう積極的に立案していきます。



## 10 密な区画に風や光をとりいれる

(暮らし) (商業) (防災)  
木造の商店や住宅が密集しているエリアに対して防火・再建不可・光環境・通風の観点から考え、悪影響を与える部分については解体・一部減築することで、良好な敷地環境を取り戻します。空いた土地は駐車場や広場として活用します。また、夜間の人通りが増えることで、商店の営業時間の拡大による隠岐の島町の経済発展や夜に行き場のない町民たちのための居場所になることを目指します。



## 11 本土と変わらない商い、学習、医療

(商業) (暮らし) (交流)  
エリアに立地することが有益な商業機能について2つ例を挙げます。

①地域ブランドを扱う商店  
隠岐で取れる「隠岐松葉ガニ」「隠岐白ばい」などの海産物を町の代名詞と呼ぶ地域ブランド商品として開発し、本土から電話やインターネットで注文を受けることで安定した収入源を確保します。商店や飲食店でも提供し、島の食文化を楽しめるように計画します。  
②遠隔学習・遠隔医療施設  
少子高齢化の対策として、教育・医療の充実する施設を整備します。現代ではネットを通じて本土や海外の最先端の学習や医療を受けられるようになってきているため、町民の多くがそれらを活用できるよう、ネット環境を充実させた施設を計画し、安定した学習と医療により、住民の暮らしを支えることで、本土との格差をなくします。

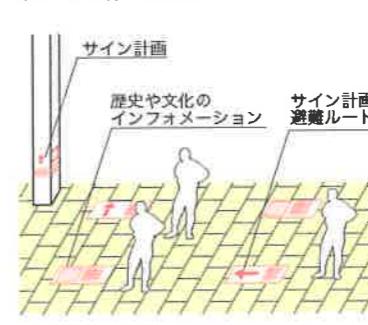
## 12 夜も明るく安全なまちへ

(景観)  
歩行者専用エリアの「道のヤネ」に照明を設置し、夜間でも明るい空間とすることで安全なまちとなるよう整備します。また、夜間の人通りが増えることで、商店の営業時間の拡大による隠岐の島町の経済発展や夜に行き場のない町民たちのための居場所になることを目指します。



## 13 床と柱のサイン計画

(景観) (交通) (交流)  
歩行者専用エリアの床と柱に対してサインを計画していきます。一定の間隔で目に入りやすい位置に設置するため、常にサインの場所を把握しやすくなっています。隠岐の島町の文化や歴史に触れることのできるインフォメーション機関や避難ルートなどの防災情報もサイン計画に組みづけて行います。



## 15 防災対策

(防災)  
安心して日々の生活を送るために津波対策・浸水対策・火災対策・避難経路の確保・災害時のBCP対策を行います。



項目	金額
道のヤネ新築工事	1240
ターミナル改修工事	475
住宅・商店改修工事	450
テナント新築工事	405
レンタカー・事務所新築工事	45
広場整備工事	62
駐車場整備工事	9
国道485号整備工事	22
臨港道路整備工事	244
合計	2952



## みなとまちの記憶を継承し、豊かに住む —低層高密度「集落型」再生—

風待ち港として賑わった歴史を持つ中心市街地が、車社会の到来とともに次第に寂れていきました。「まちの玄関口に広い歩行者優先ゾーンを作り出す」という計画は、車社会以前の「歩いて暮らすことの豊かさ」を復活させることを意味します。

多くのみなとまちがそうであるように、このまちは「人間的尺度」による密度の高い空間によってつくられています。そして、天然の良港として栄えた歴史一まちの記憶ーがあちこちに懐かしく残っています。

このような豊かな歴史性を丁寧に掘り起こし、現代的に回復する「低層高密度集落型整備」を提案します。

### ■中庭と路地

国道両側の二つの街区に、建物に囲まれ居心地の良い中庭を配置します。子供たちの遊び場であり、イベントや祭りの開かれる空間です。

まちには「小路（こうじ・しょうじ）」と呼ばれ海に向かう親密な路地空間が多く残っています。このような路地空間の復活を図り、中庭や表通りと結びます。

### ■職住近接

店の奥や2階に住まいを持つ、という伝統的な町家型建築により「多世代居住のまち、いつも人の気配のあるまち」を目指します。

### ■まちなか居住者の増加

プライバシーを確保しながら光や風などの自然を取り入れ、性能の良い快適な高密度住宅地とすることによって、地区の人口増加を図ります。

### ■柔軟性ある計画

分棟形式の開発はこれまでの権利関係の継続が可能であり、地権者の多様なニーズに応えられます。また、計画の変更や修正に柔軟に対応することができます。



### ゾーニング（機能配置計画）

#### ■交通

国道485号は歩行者専用路、臨港道路は南進の一方通行路とします。街区を囲む町道は幅員6mを確保し、街区内的町道は廃止を原則とします。バス停とタクシー乗り場は、一方通行路の広い歩道を生かしまち側に移動します。

#### ■交流

交流の中心施設となる「交流ホール」を西郷湾や大山の眺望が得られ視界の開ける位置に配置します。中庭や路地、公園通りなどの外部空間は全て交流空間です。

#### ■店舗と住居

表通り沿いに商業空間を配置し、店の奥や2階に住居を持つ「住宅併用店舗」を主体とします。（2階建てとし、敷地北側1列のみ一部3階）

#### ■周辺施設との連携

##### ○フェリーターミナル

西側ファサードはまち側から海や船が見えるよう外壁や階段を改修します。客だまりはまち側の屋外舗装と連携する床舗装とします。

##### ○ポートプラザ館改修

町役場分室など公共的利用とします。再開発にかかる住民相談室を常設し、長期にわたる計画に対応します。災害時は周辺住民の一時避難場所として利用します。

##### ○ブリッジ

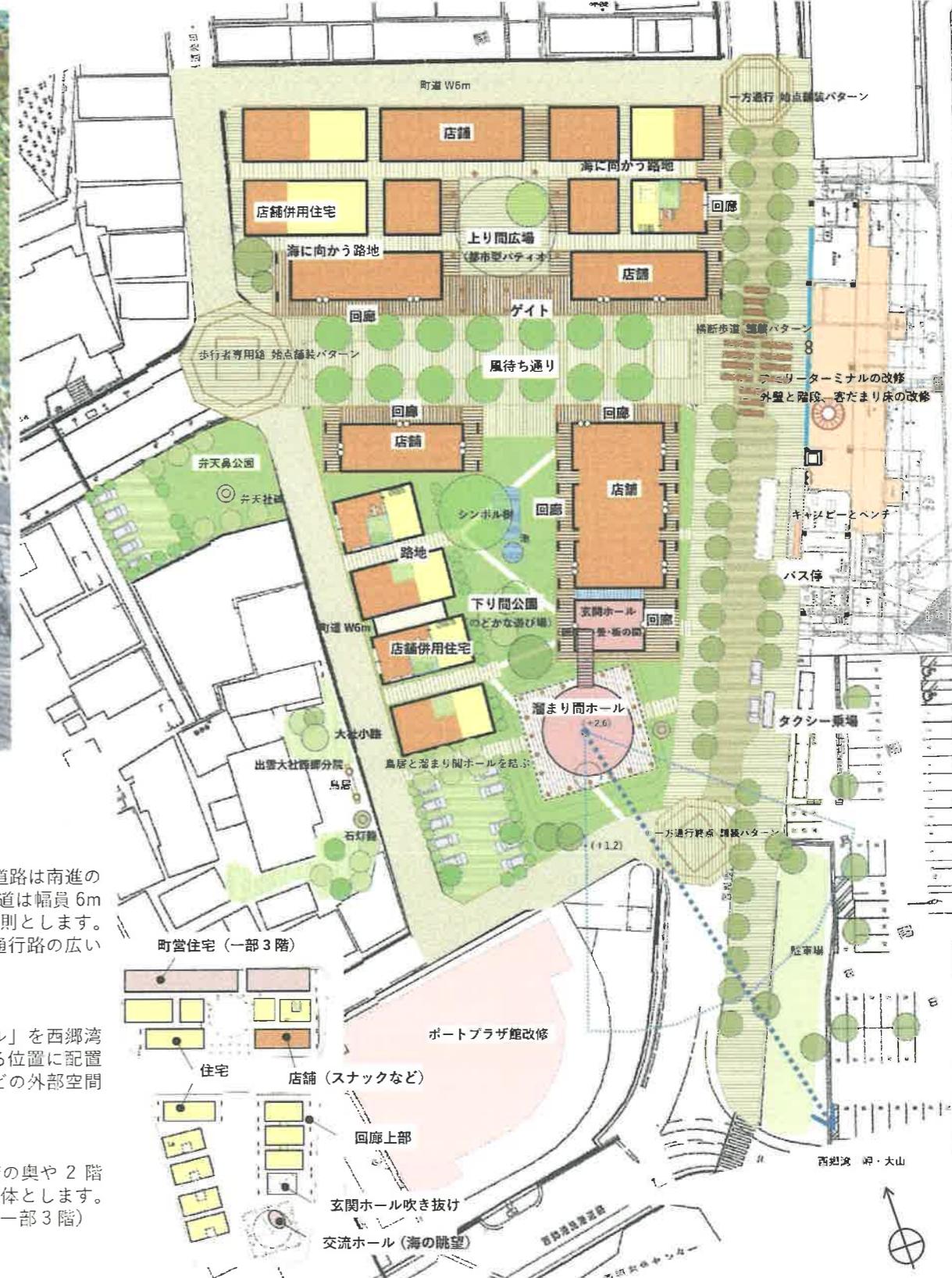
海への開放感を得るために撤去します。

##### ○江戸後期の弁天社跡地

風待ち通りの入り口にあります。「弁天社碑」を整備し、「弁天島公園」として保全します。

#### ■駐車場

4か所の駐車場は現況通りとします。整備エリア内の居住者用に、最小限の駐車場を確保します。





# 隠岐の島町 西郷港周辺地区 DESIGN COMPETITION

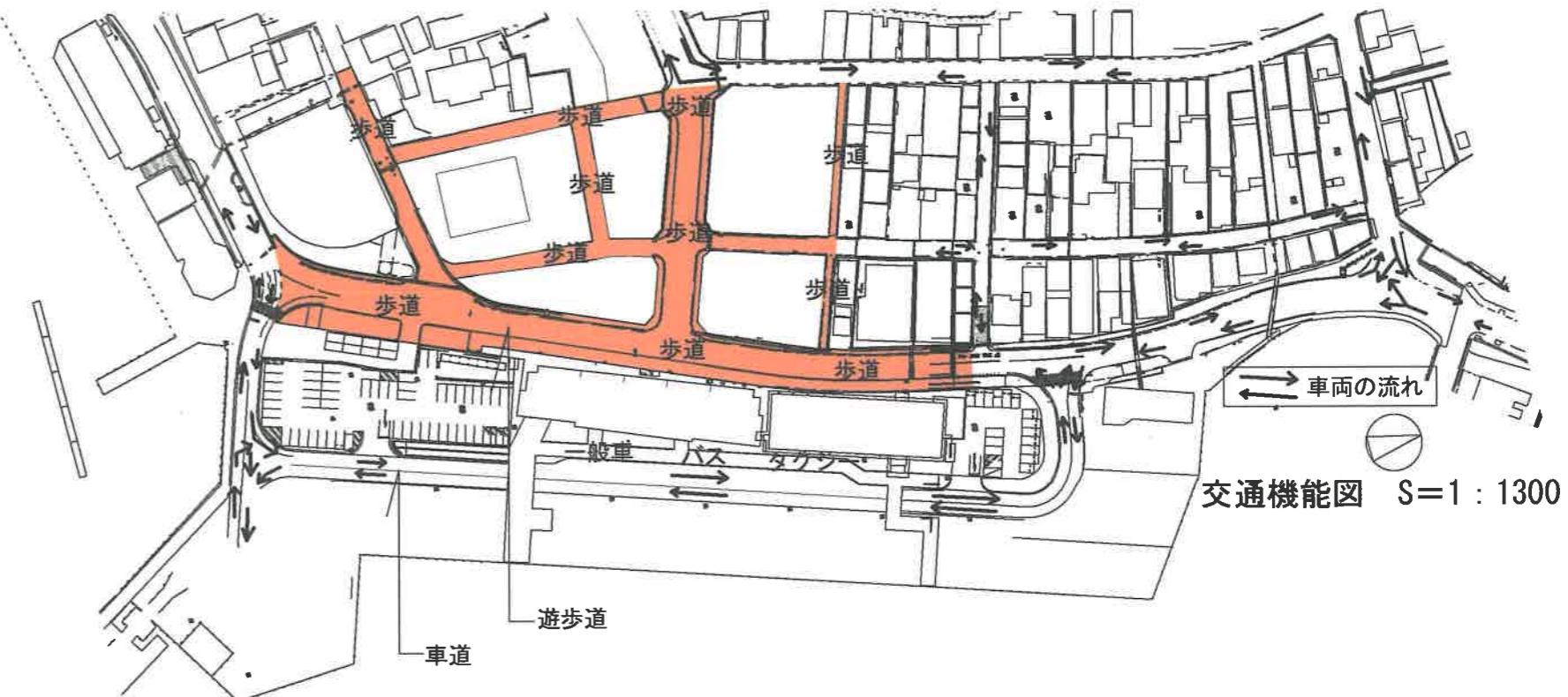
## 設計主旨

この計画は隠岐の島町を世界で一番住んでみたい街にする計画です。

ポートプラザ、フェリーターミナル、ジオゲートウェイとにぎわい会館の連携により様々な交流を図る。

住居付き店舗、住宅によりこの地域の定住人口を増す。

国道485号、臨港道路を遊歩道にし、この地域を自由に散策できる。



交通機能図 S=1:1300

## 交流機能に関する整備方針

にぎわい会館とポートプラザの連携により各種の交流を図る。

にぎわい会館の機能には以下の交流を図ることができる。

子供を守り、シングルマザーを守る。中高生を育成する。観光客をお世話し、隠岐の島町の素晴らしい自然に触れてもらう。

外国人観光客を呼び込み、島民との交流を図る。



にぎわい会館南東面



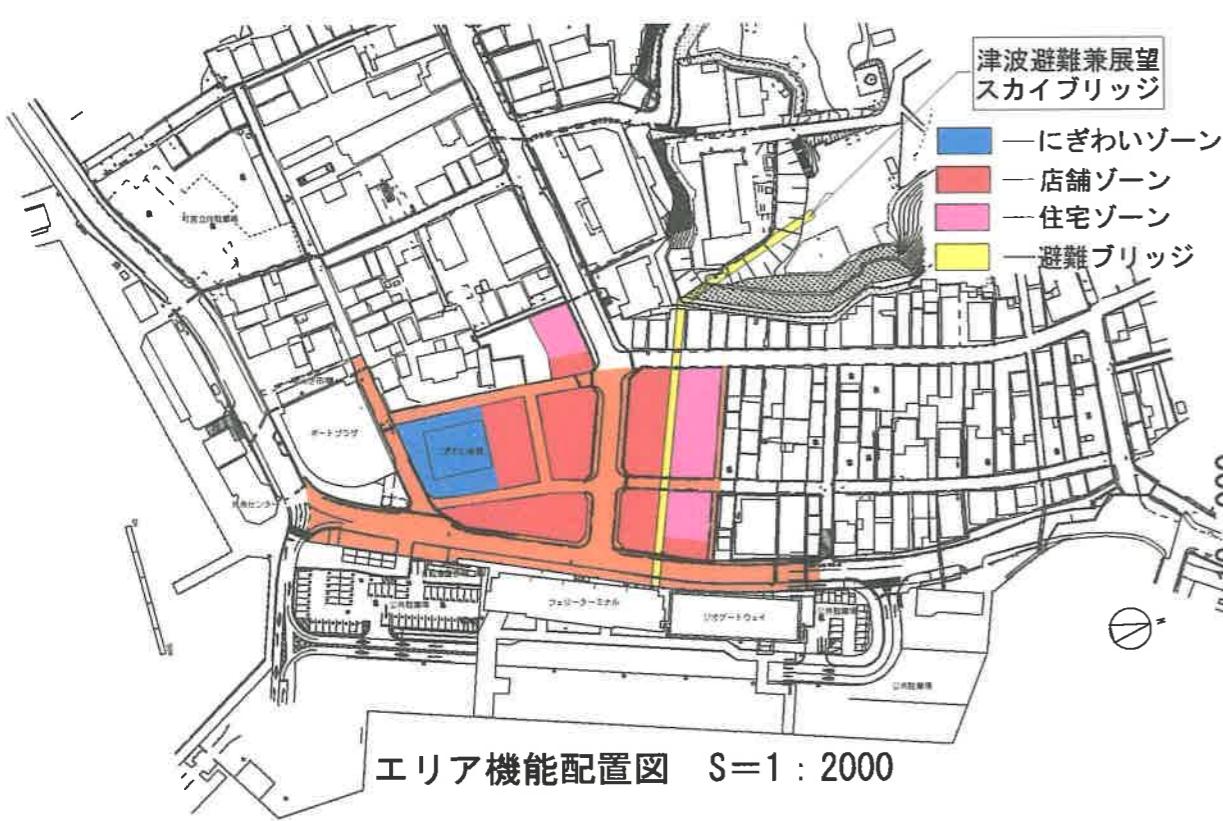
にぎわい会館配置図 S=1:1000



にぎわい会館東面



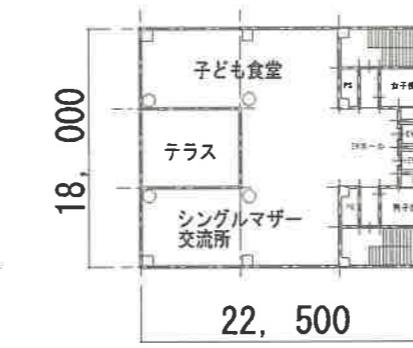
にぎわい会館南西面



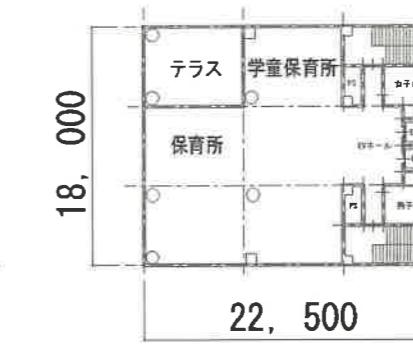
エリア機能配置図 S=1:2000



1階平面図 S=1:400



2階平面図 S=1:400

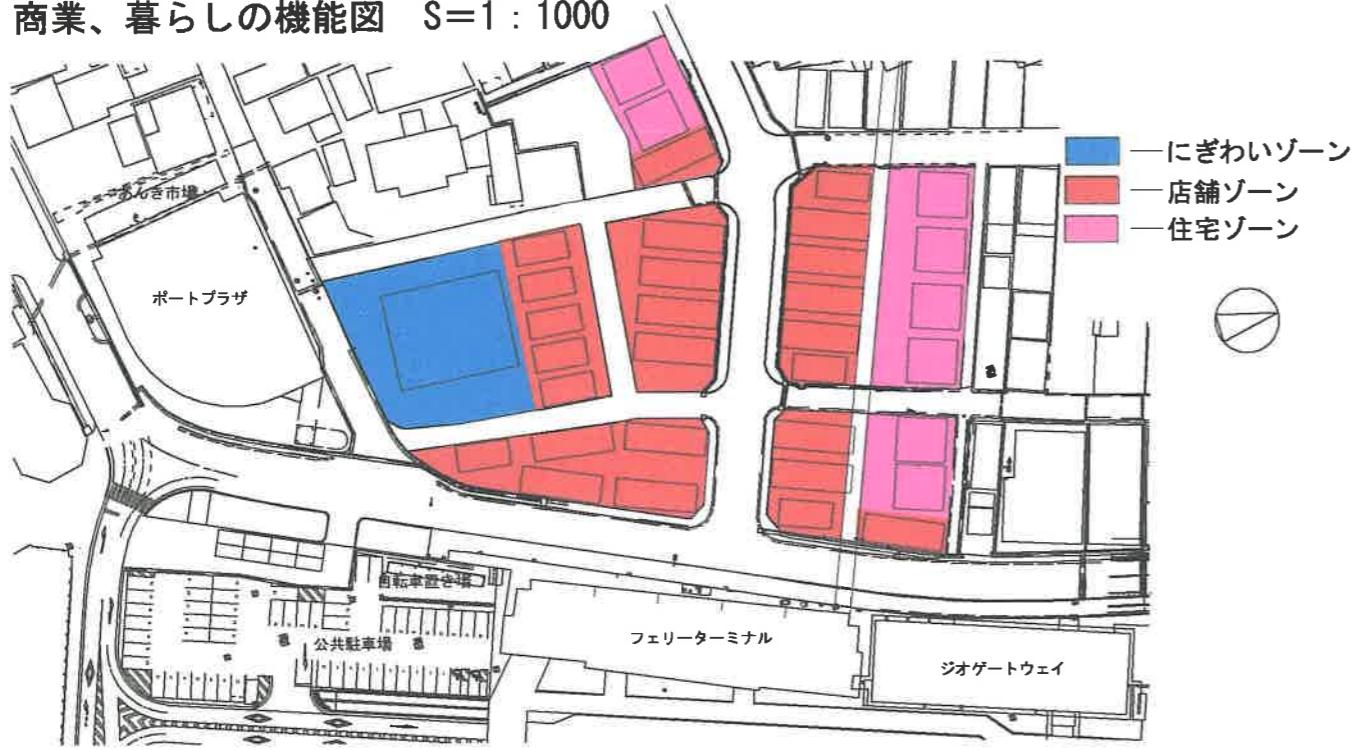


3階平面図 S=1:400



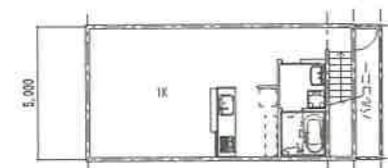
4階平面図 S=1:400

## 商業、暮らしの機能図 S=1 : 1000



(店舗-1) 1階 平面図 S=1 : 200

住居付き店舗  
1階  
店舗 50m<sup>2</sup>



(店舗-1) 2階 平面図 S=1 : 200

2階  
住居 50m<sup>2</sup>

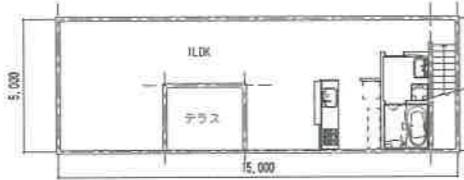


屋根 瓦葺  
外壁 杉板貼 透明防腐剤塗



(店舗-2) 1階 平面図 S=1 : 200

住居付き店舗  
1階  
店舗 75m<sup>2</sup>

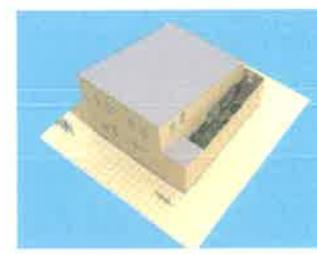
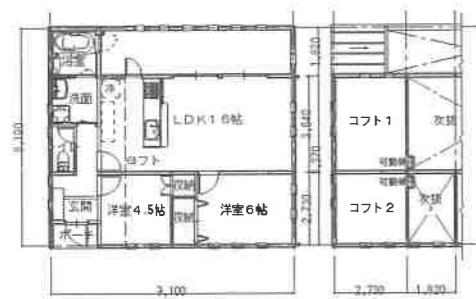


(店舗-2) 2階 平面図 S=1 : 200

2階  
住居 75m<sup>2</sup>



屋根 瓦葺  
外壁 杉板貼 透明防腐剤塗



中庭のある、街中のプライバシーを守る住宅。

75m<sup>2</sup>

屋根 瓦葺

外壁 杉板貼 透明防腐剤塗

## 景観形成の方針

住居付き店舗、住居は杉板貼りの仕上げで統一し、同じ瓦葺として一体感を持たせる。



# 西郷・港前マルシェ構想

～島民の喜びが充つる「新たな6次産業」による再生をめざして～

★漁師や農家や畜産家は、魚や野菜果物や肉を、孫や子に美味しく食べてもらい「旨いだろう、お父さんが獲ったんだ。育てたんだ。」と自慢できることが「最大の生きがい」である。

★そのためには、1次產品を「料理」に変身させる「シェフ」が必要である。料理の達人である「シェフの腕」は、西郷港周辺地区の既存店舗に育っている。焼きの達人、煮るの達人、漬けの達人、干しの達人、発酵の達人などである。魚をさばけば「さざえ丼」に、そばを打てば「隠岐そば」に、肉を煮込めば「隠岐牛煮込み」にと、変身させることで付加価値がグッと上がり、お金を使いたい島民が、乗換客がいる。

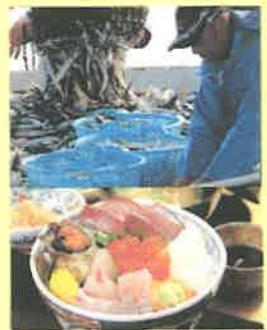
★1次產品のまちでは、そのまま販売しても、高い鮮度だけでは、決して高く売れない。だから「送料やCAS冷凍代」を上乗せして、高く売れる大都市圏に回す。これも大切なこと。

★しかし、同じ場所で「シェフの腕」を加え、2次產品に変身させたとたんに、高く売れる。単純に旨いから、高くて手が伸びるのだ。

★隠岐群島（島後・島前3島）の海産物、農産物、畜産物をフェリーや貨車で集め、料理の達人である「まちなかシェフ」たちによって変身させた料理を、乗換客が多い昼間に「島民」に販売する「シェフの腕自慢市」

それが「西郷・港前マルシェ」である。そこには、島民の喜びが充ちあふれている。イキイキ生きがいの場づくりである。

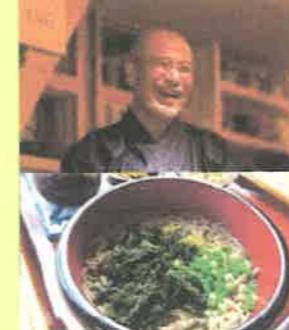
【コンセプト、商業機能に関する整備方針】



## ★1次産業従事者の喜び

飲食店に魚を納めた「漁師」が、家族で訪ね、シェフが変身させた「さざえ丼」を食しながら「この魚は、父さんが獲ったんだ。旨いだろう。」と自慢し、孫・子の笑顔を得た瞬間にある。

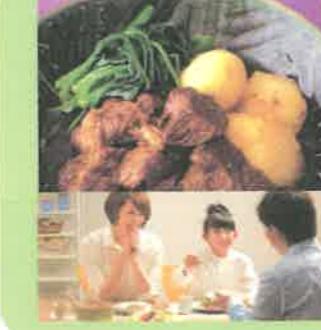
- 専用の加工場 + ●レンタルキッチン



## ★2次産業従事者の喜び

「まちなかシェフ」が、カウンター越しに「この隠岐そば、なんて美味しいの。」と言われて、包丁を持つ「シェフの腕」を指さした時に、食事客の笑顔を得た瞬間にある。

- 常設の売場 + ●食事の場所



## ★3次産業従事者の喜び

「販売サービス者」が、リピーターから「隠岐牛の煮込み、家族の評判が良かったので、また買いにに来ました。」と褒められながら、島民や乗換客の笑顔を得た瞬間にある。

### ●「専用の加工場」とは？

★6次産業とは、海産物、農産物、畜産物などの一次産業が、食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態である。

★食品衛生法の改正に基づき、令和3年6月からHACCPに沿った衛生管理が制度化された。「調理された食品（=加工食品）」を販売するためには「調理された食品を作る専用の厨房施設」、つまり「専用の加工場」の利用が必要条件となった。これを飲食店が自ら用意するには、飲食店以外に「建物+設備への再投資」が必要で、投資をためらう飲食店が多い。

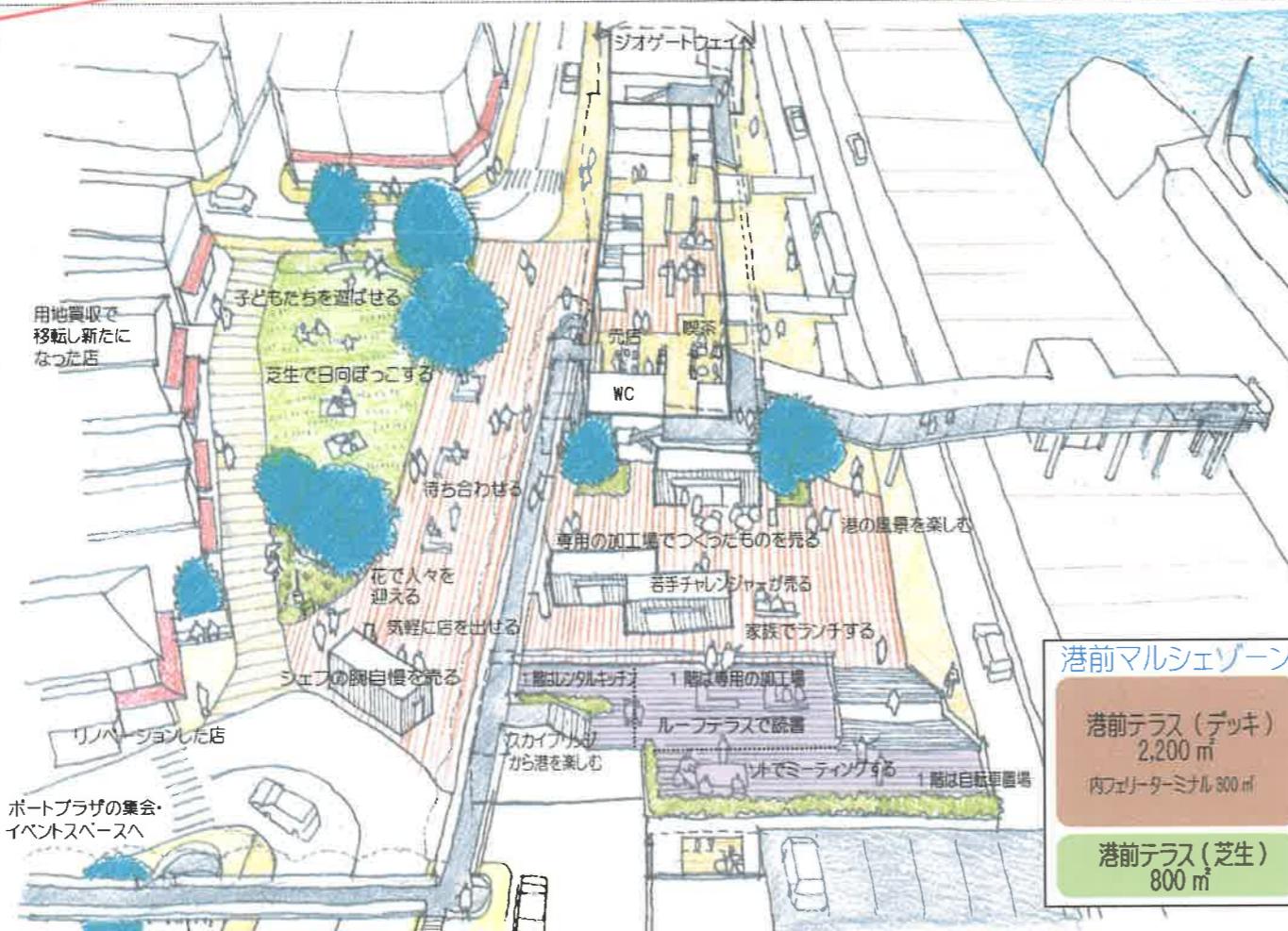
★「新たな6次産業」の構築に向けて、隠岐の島町が、公設で「専用の加工場」を整備することには、大きな意義がある。

★このように「新たな6次産業」を構築するためには「専用の加工場」の設置が必要である。

### ●「レンタルキッチン」とは？

★開業資金が乏しい「若手飲食店チャレンジャー」を支援するため、飲食店に厨房設備（5百万円程度）の投資をせず、開業することができる「レンタルキッチン」を3台、新設する。ここは、光熱水の実費相当額の時間貸し料金で使用できるようにする。

★レンタルキッチンは「若手飲食店チャレンジャー」たちの情報共有の場となる。例えば、食材仕入れのテクニック、味付けテクニックなどの情報交換である。先進地の米国ワシントンDCでは、若手シェフの料理テクニックが飛躍的に伸びたと言われ、飲食店の新規出店数が増加している。



### ●「常設の売場」とは？

★港前マルシェゾーンに設置する「常設の売場」は、乗換客が多い昼間（11:00～16:00）に限定して、島民への販売を中心に営業する。これは、夜間にを中心に営業する飲食店の営業時間と重ねず、飲食店を二毛作にするための工夫である。

★常設の売場は「若手飲食店チャレンジャー」自身が販売する施設である。  
★1ブースは 20 m<sup>2</sup> とし、5 ブース設置する。

### ●「食事の場所」とは？

★乗換客の楽しい食事の場所は、①芝生で日向ぼっこしながら、②テラスから港の風景を見ながら、③屋上テラスやスカイブリッジから港の風景を見ながら、④フェリーターミナルのベンチで風雨を避けながら、⑤船上で海を見ながら、⑥隠岐空港で飛行機を待ちながらと、いろいろなシーンを想定する。

★島民の楽しい食事の場所は、①テイクアウトし、各家庭で談笑しながら、②芝生で日向ぼっこしながら、③「一次避難場所・西郷公園」に新設した「西郷テラス」へハイキング感覚で登り、高台からまちを眺めながらと、いろいろなシーンを想定する。

★港前マルシェゾーンを構成する、港前テラス（デッキ）2,200 m<sup>2</sup>と港前テラス（芝生）800 m<sup>2</sup>には、いろいろなシーンが散りばめられている。

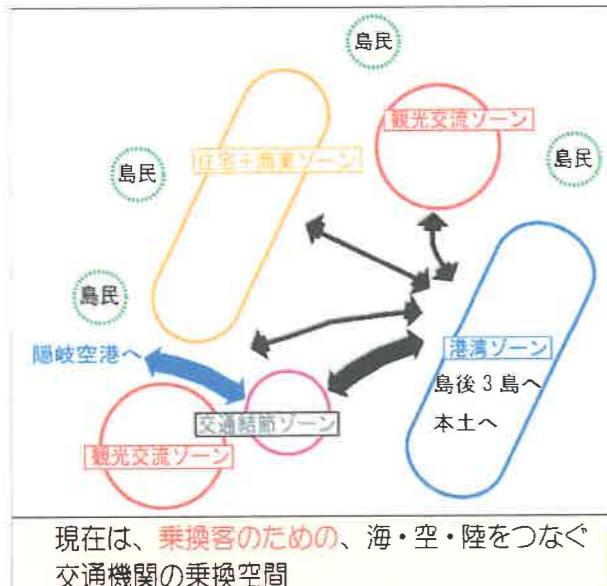


## ●交流機能に関する整備方針 ●各機能の連携を深める提案

★「西郷・港前マルシェ構想」は、「隠岐の島町の新しい顔づくり」である。この構想は、これまで乗換客が中心であった「海・空・陸をつなぐ交通機関の乗換空間」に、島民が滞留し、島民が交流する空間として「港前マルシェゾーン」を挿入した。

★島民が滞留し、島民が交流するためには、「港前マルシェゾーン」に、島民の「希望の光」が詰まっている必要がある。  
 ①昼間に買える「美味しい料理」の光 ②若者がチャレンジできる「起業」の光 ③テラスから港への心地良い「眺めの抜け」の光 ④家族そろっての「送迎」の光 ⑤グランドレベルからの「広い空」の光

★これまでに投下した社会資本を大きく壊さず、地域資源として活用する「西郷・港前マルシェ構想」では、「港前マルシェゾーン」が周辺ゾーンをつなぐハブの軸となって、新たに「稼ぐ仕組み」を整えることができる。



## ●エリア全体の機能配置図（ゾーニング図）



### ★住宅+商業ゾーン

「住宅」と「物販店」と「夜間中心の飲食店」が集まる「住宅+商業機能」の中心ゾーンである。多くの「シェフ」が集まるゾーンであり、こここの「シェフの腕」が、隠岐諸島の食材を美味しい料理を変身させる。また、将来ここに出店したい「若いチャレンジャー・シェフ」を育成すべきゾーンでもある。ポートプラザ横のこだわり特産物を販売する「あんき市場」は、このゾーンの「空き店舗」を2店舗リノベーションの上、移設する。このゾーンは、隣接する「港前マルシェゾーン」と刺激しあいながら、商業機能の相乗効果を高めていく。

## ●交通機能に関する整備方針



★臨港道路は、フェリーターミナル前の60mを「道路廃止区間（図中の緑）」とし、「港前テラス（デッキ）」の一部を整備する。これは、フェリーターミナルからまち側につながる「最重要ポイント」であるこの区間を、乗換客が、効果的、効率的かつ安全に移動するための「海とまちがつながる空間」に変えることを目的としている。

★臨港道路の60mにわたる「道路廃止」によって、失われた「交通機能」の改善は、次の動線で対処する。

①布施・中村方面と都万方面を結ぶ通過交通は、国道485号経由の動線とする。

②ポートプラザのバス停で乗降する公共バスは、バス停付近で旋回し、引き返すか、港湾ゾーンを抜けて、隠岐病院や隠岐空港へ向かう動線とする。

③布施・中村方面へ向かうタクシーは、町道を通過し、国道485号を経由の動線とする。通過する町道の「歩行者の安全」を確保するため、町道2路線に相互の一方通行規制を導入する。

★「道路廃止区間」の両端部は、ガードレールや反射板設置などの安全対策を実施する。

★「港前テラス（芝生）」の用地買収が完了した段階で、西側の町道は、歩行者優先道路による規制と路面改良を実施し「海とまちがつながる空間」を最大ここまで拡大する。

## ●景観形成に関する方針

★「住宅」と「物販店」と「夜間中心の飲食店」が集まる「住宅+商業ゾーン」は、リノベーションによって、街並みデザイン（協調）を実施する。

★個々にリノベーションするのではなく、まずは、官民連携の上、10年後の「ビジョン」を作成し「ゾーンを変える戦略」を作成の上、ゾーンの価値を高めることを目指していく。

①官民連携し、10年後の「ビジョン」を作成

②ビジョンに向けた「ゾーンを変える戦略」を立案

③戦略を実施する「管理運営組織」として「エリアマネジメント組織」を設立

④プロモーション（イベント）だけに頼らない、稼ぐ視点の組織活動

⑤街並みデザインにこだわった組織活動

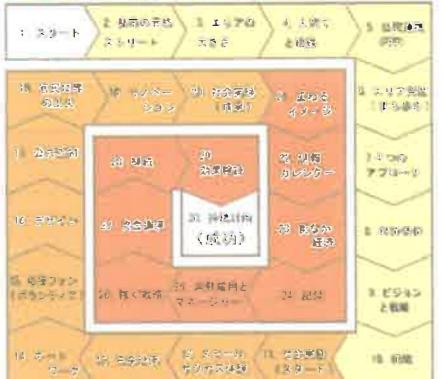
## ●暮らし機能の整備方針



## ●整備する施設の利活用や運営に対する提案

★「港前マルシェゾーン」の管理運営を担う「エリアマネジメント組織」は、次図に示される「まち育ての人材育成プログラム」を導入し、3年間で構築する。

★このプログラムの3年後の目標は、組織活動の「自立+持続」である。そのためには、①組織活動、②デザイン、③プロモーション、④稼ぐ視点の4点バランスが大切である。



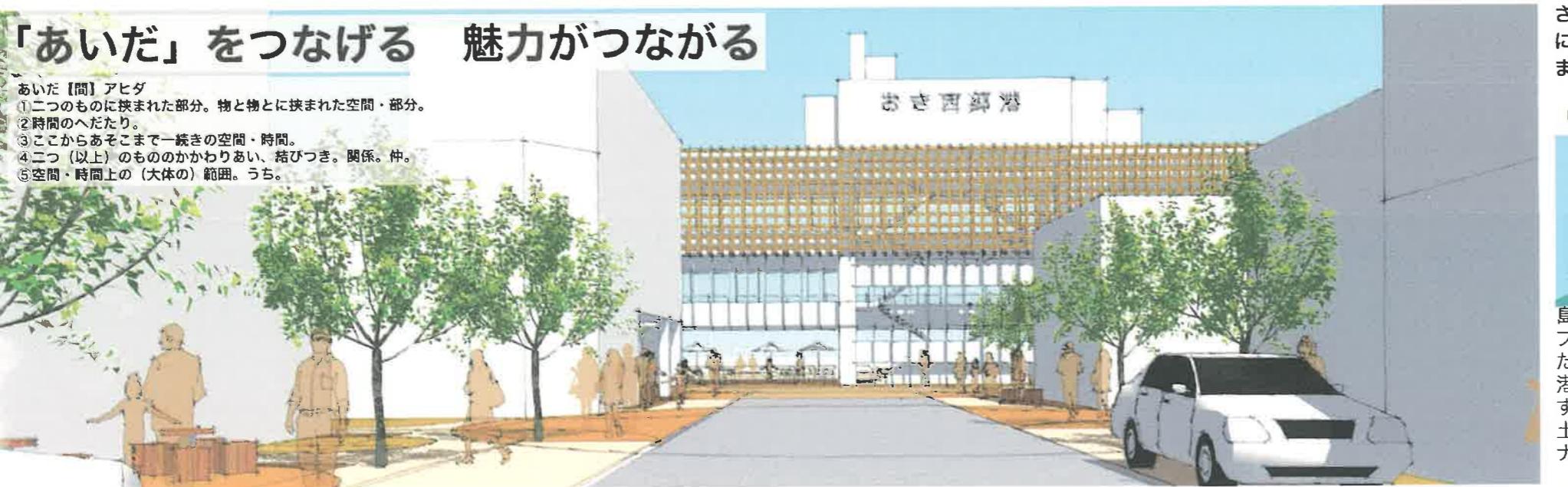
★島民が安全に住み続け、暮らすためには、地震と共に、津波から人命を守る対策が防災上の重要課題である。

★津波避難は、緊急を要するため、普段から通いなれた「一次避難場所」へ早急に移動することが大切である。そのためには、西郷港周辺地区に最も近い高台で、西郷地区一次避難場所に指定された「西郷公園または諾浦神社境内」への避難訓練を普段から、家族全員で体験することが望ましい。そのためには、西郷公園付近の高台に、「港前テラス（芝生）」の「港前マルシェ・シンボル樹」と呼応する「西郷公園・シンボル樹」を植えた「西郷テラス（芝生）」を整備し、島民が「港前マルシェ」で購入した料理を食する場として活用する。島民であれば、車利用でも徒歩でも、ハイキング感覚で利用してほしい。また、年間数回は「港前マルシェ」を「西郷テラス（芝生）」で開催することも検討したい。

★「指定避難所」である大城山の西郷小学校には、西郷公園または諾浦神社境内の「一次避難場所」から高台を移動することで、スムーズに避難することができる。

# 「あいだ」をつなげる 魅力がつながる

あいだ【問】アヒダ  
 ①二つのものに挟まれた部分。物と物とに挟まれた空間・部分。  
 ②時間のへたり。  
 ③ここからそこまで一続きの空間・時間。  
 ④二つ（以上）のもののかわりあい、結びつき。関係。仲。  
 ⑤空間・時間上の（大体の）範囲。うち。



## 交通

- ・まち側に島をつなぐ交通拠点をつくります。
- ・歩車共存のまちを目指します。
- ・港の駐車場で駐車台数を確保します

## 交流

- ・大きな「みなとひろば」をつくります。
- ・小さな「結び目」をたくさんつくります。
- ・フェリーターミナルが交流空間をつなぎます。

## 商業

- ・おみやげエリアが賑わいをつなぎます。
- ・海を眺めるカフェをつくります。
- ・「結び目」が個人商店を応援します。

## 暮らし

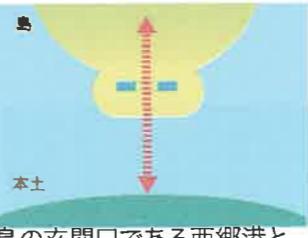
- ・空き家を活用して居場所をつくります。
- ・「結び目」が暮らしを彩ります。
- ・暮らししながらまちを変えていきます。

## 商業

- ・おみやげエリアが賑わいをつなぎます。
- ・海を眺めるカフェをつくります。
- ・「結び目」が個人商店を応援します。

さまざまな「もの」「こと」「ひと」の関係性を結ぶ「あいだ」のデザインによって、これまで培われてきたまちの魅力を活かしながら、あたらしいまちの魅力をみんなで育てていきます。

## 「島」と「本土」を結ぶ



島の玄関口である西郷港とフェリーターミナルを開かれた港空間として改修します。港の構えと活動をオープンにすることで、「まち」全体が「本土」との間をつなぐターミナル空間となります。

## 「まち」と「まち」を結ぶ



西郷港から伸びる「まち」への流れをボードウォークや舗装デザインで結び、楽しい歩行空間に再編します。多様な活動をつなげることで玄関口地域全体がつながる流れを生み出します。

## 「うみ」と「まち」を結ぶ

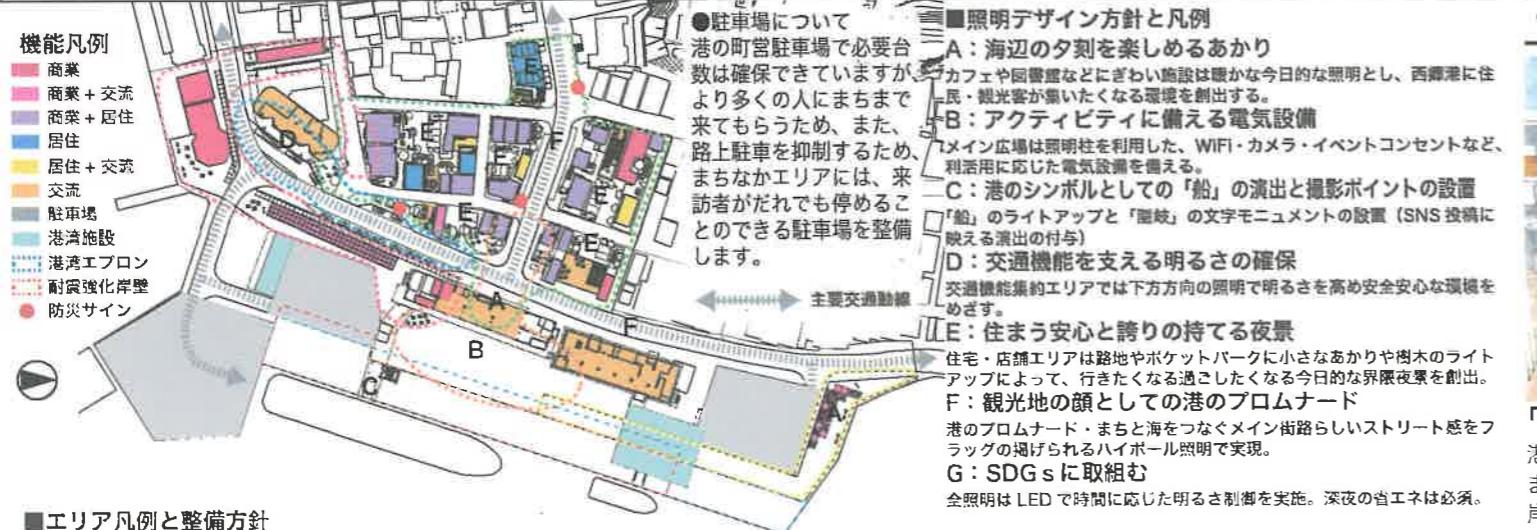


「まち」と「みなと」の「あいだ」に活動をつなげる賑わい空間をつくります。単なる通過点ではなく、寄り道や滞在を楽しむ空間として「あいだ」をつなげていきます。

## 防災

- ・まちのデザインに防災の視点を取り入れます。
- ・港湾の防災機能を維持し向上します。
- ・分かりやすいサインで台地に誘導します。

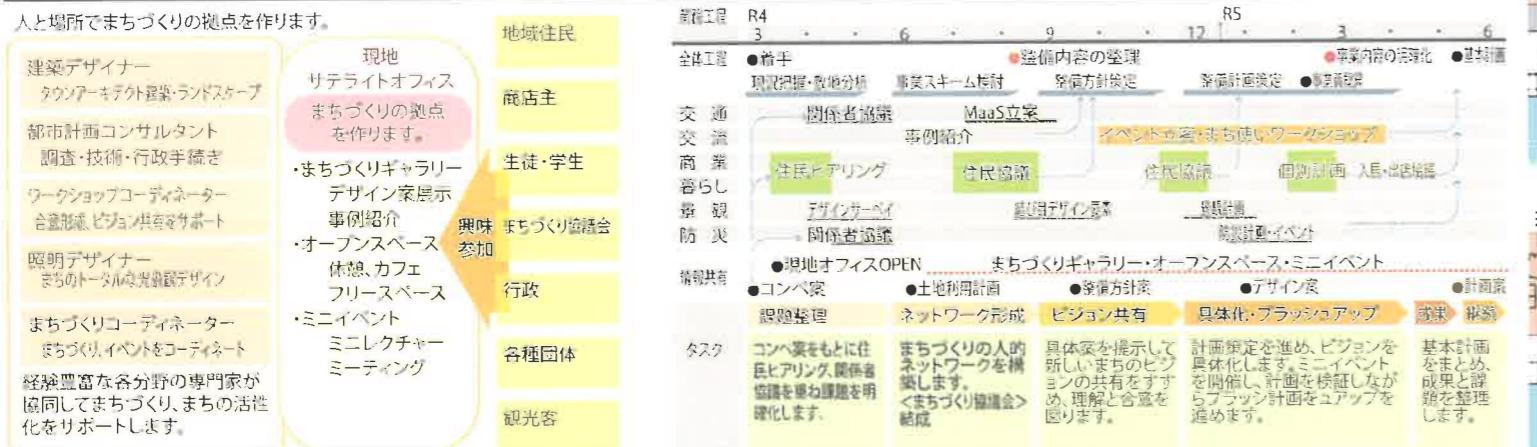
## □全体ゾーニング図



### ■エリア凡例と整備方針

- ・みなと交流エリア・・・「みなとひろば」の整備とフェリーターミナル改修で「うみ」と「まち」をつなげます。
- ・乗り換え拠点エリア・・・「ポートプラザ」の既存ロータリーの機能を拡張して交通乗り換え拠点を整備します。
- ・おみやげエリア・・・点在しているお土産、特産品の賑わいを「みなとマーケット」がつなげます。
- ・北前船エリア・・・宇屋川河口から「みなとひろば」までカフェのあるボードウォークでつなげます。
- ・まちなかエリア・・・既存のまちと暮らしを活かすように「結び目」を整備します。

## □みんなでつくる実施体制と工程表



## □「あいだ」のデザイン方針

### 「うみ」と「まち」の「あいだ」をつなぐ港湾改修



### 「うみ」までつづく「みなとひろば」

港湾内道路と既存キャノピーを撤去して、「うみ」までつながる「みなとひろば」を整備します。岸壁からフェリーターミナルまでの「あいだ」の障害物がなくなり、「うみ」とつながります。

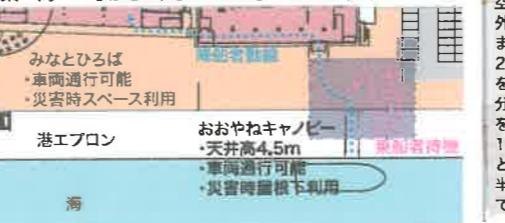
### 「うみ」を感じながら船を待つ

高速船の乗船客が待機する「おおやねキャノピー」を「うみ」の近くに整備します。船を待っている旅客が「うみ」を感じられるとともに、乗船客と降船客の動線交錯を解消します。

### 現状



### 提案 海とつながる「みなとひろば」と「おおやねキャノピー」



### 活動の輪を結ぶ「あいだ」のデザイン

空き家、空き地、駐車場、接道のない建築、路地、建物の外構など、まちにある「あいだ」の空間に建築の内部で展開される活動の輪を広げ、にぎわいのある街並みをつくります。商いと暮らしが一体となっているまちの多様性を活かした新たなアクティビティを添えるようにデザインすることで、島ならではの時間の流れ、人のつながりをまちの顔として表させます。

このまちを訪れた人は、自分だけの回遊ルートを見つけて、このまちならではの体験をすることになります。

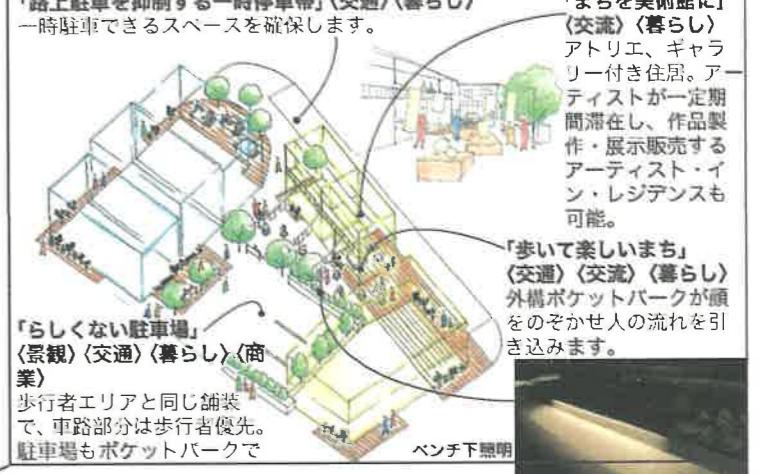
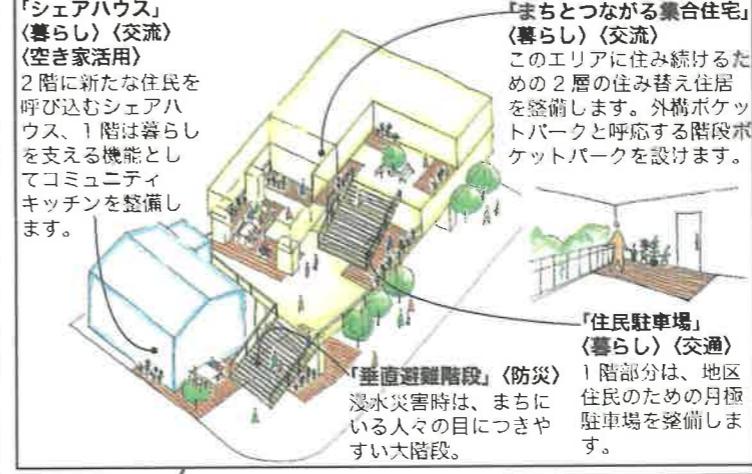
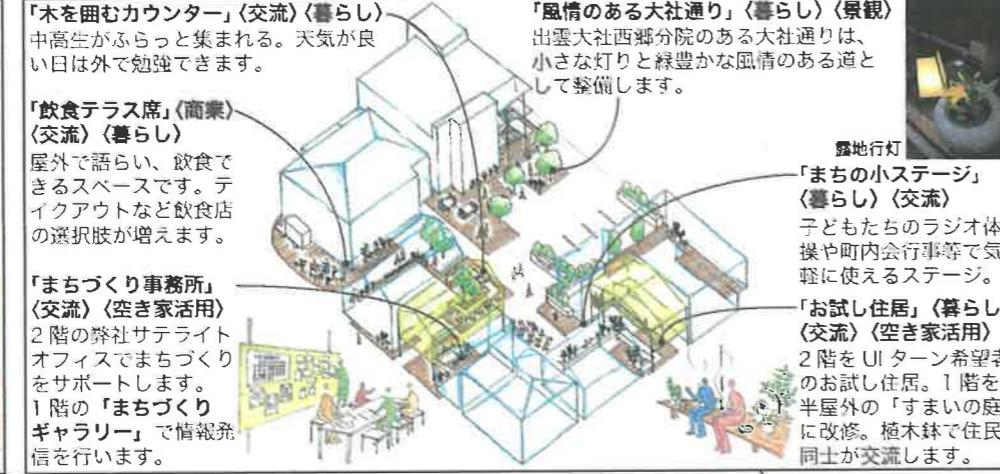
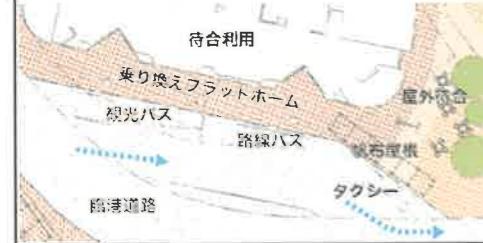
### みんなで育てるまちづくりデザイン要素

まちがもっている魅力的な要素を抽出し、「あいだ」を結ぶ「結び目デザイン要素」として用います。まちづくりをみんなで考え、意見を交換し合い、つくり、使って育てていくことのできる柔軟なデザイン手法です。

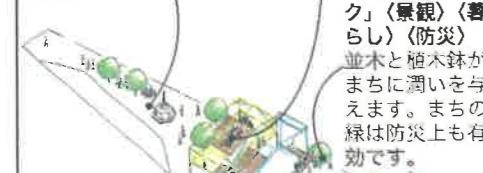


## □ さまざまなつながりを生み出す「あいだ」のデザイン

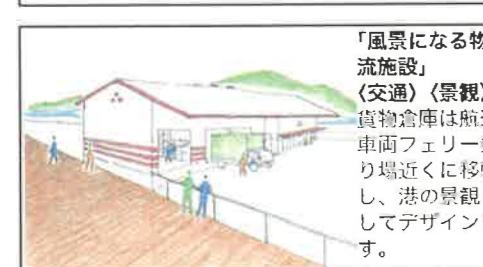
「島全体をつなげるポートプラザ駅」  
（交通）（交流）  
ポートプラザ外構の既存ロータリーを乗り換える  
プラットホームとし、臨港道路沿いの送迎プラット  
ホームとあわせて交通拠点「ポートプラザ駅」として  
整備します。  
乗り換え待ち時間の「あいだ」にポートプラザの  
交流空間を利用することができますため、お互いの利  
用率を高める相乗効果がうまれます。



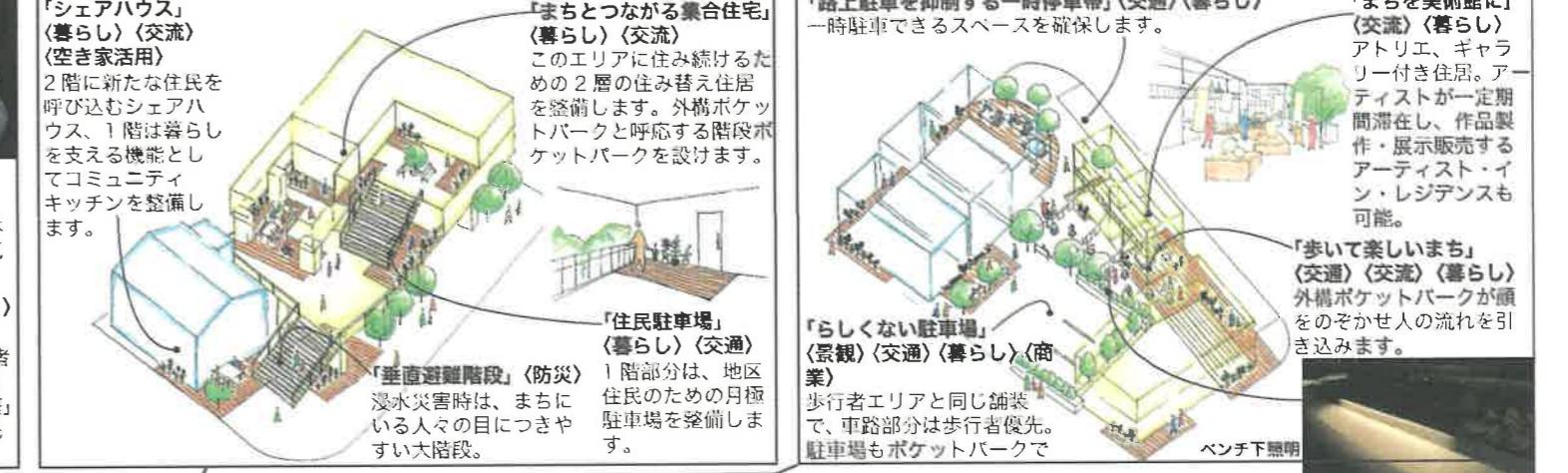
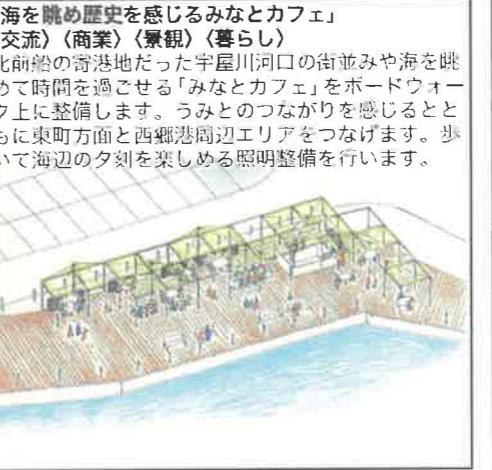
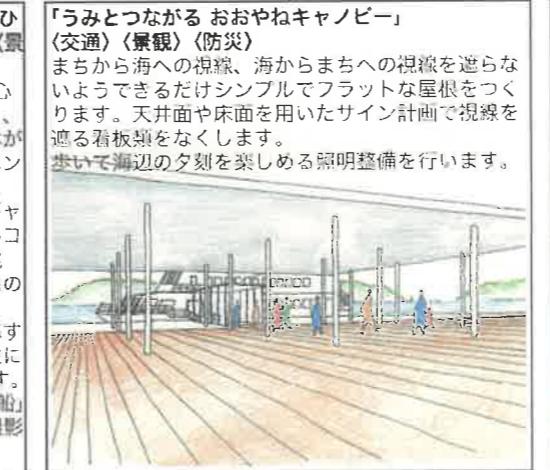
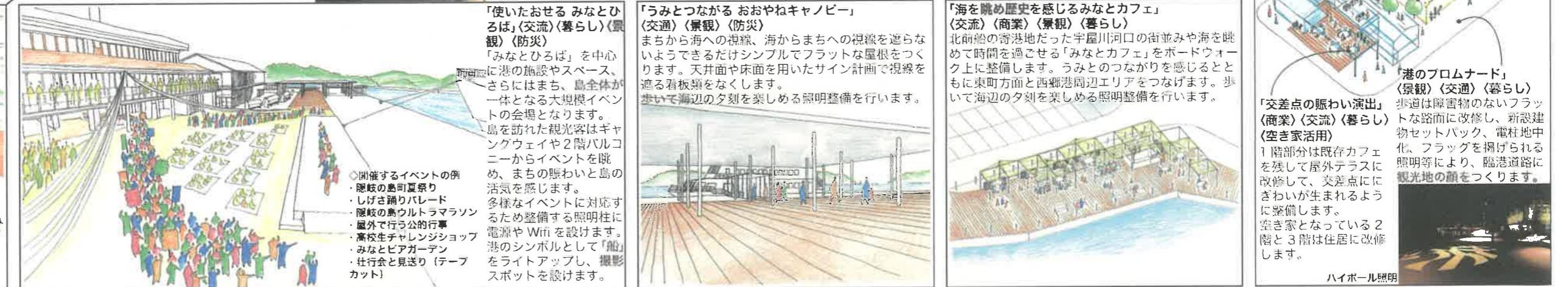
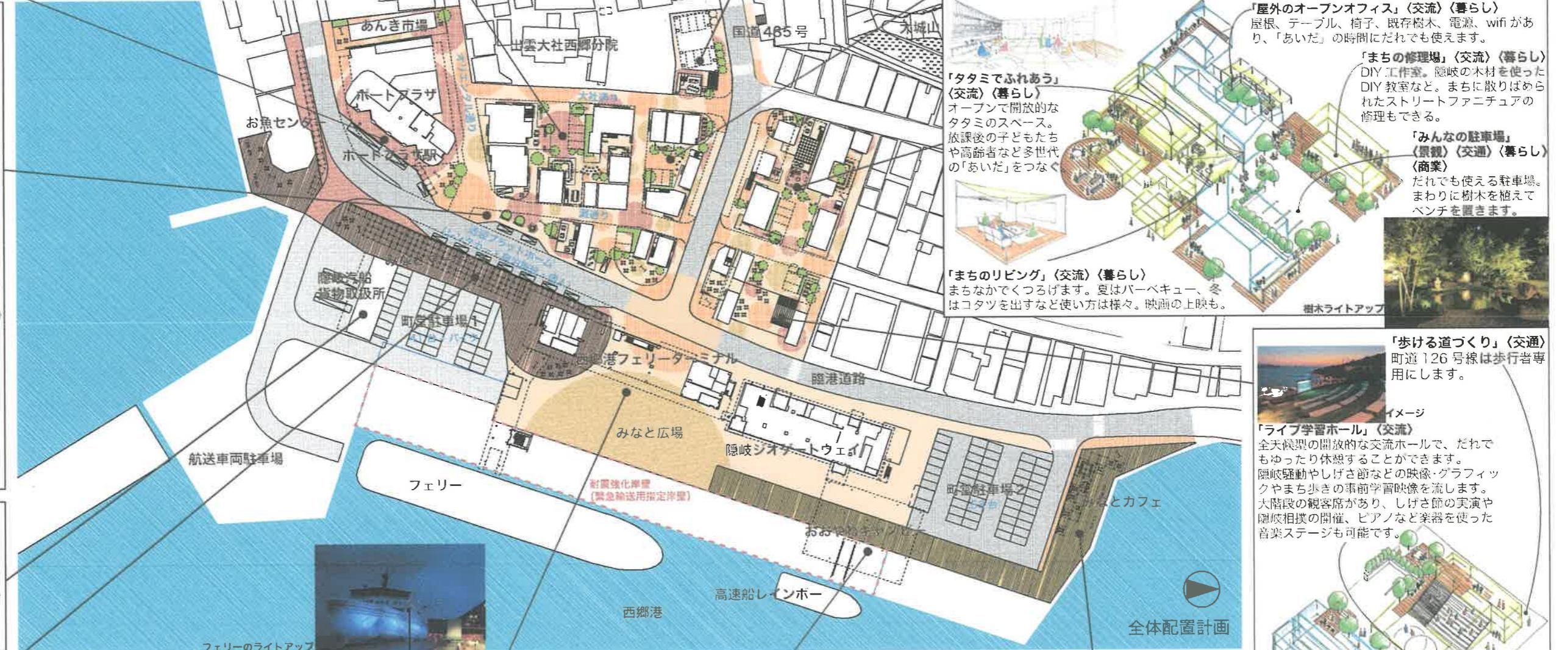
「記憶を伝える防災記念  
碑公園」  
（防災）  
災害の記憶を伝える記念  
碑を目立たせ、啓発と観  
光客への情報発信に役立  
てます。  
そばに送迎プラットホー  
ムを設けて、自然と生活  
者の目に留まるようにし  
ます。



「街並みをつくる  
しまデッキ」  
（商業）  
（交流）  
（景観）  
既存店舗を「しま  
デッキ」でつなぎ、  
街並みに一体感を  
つくり、賑わいを  
つなげます。



「にぎわいをつなぐ みなとマーケット」  
（商業）  
（交流）  
（暮らし）  
（景観）  
あんき市場、お魚センター、フェリーターミナルの  
お土産店舗で別々になっている既存の賑わいを、「み  
なとマーケット」がつなげます。歩いて運れるにぎ  
わいの回遊動線を整備します。このにぎわいは、さ  
らにまち側の外構ポケットパークへつながってい  
き、エリア全体を活性化します。



「まちを美術館に」  
（交流）（暮らし）  
アトリエ、ギャラ  
リー付き住居。ア  
ーティストが一定期  
間滞在し、作品製  
作・展示販売する  
アーティスト・イ  
ン・レジデンスも  
可能。

「歩いて楽しいまち」  
（交通）（交流）（暮らし）  
外構ポケットパークが頑  
をのぞかせ人の流れを引  
き込みます。

ベンチ下照明

「屋外のオープンオフィス」  
（交流）（暮らし）  
屋根、テーブル、椅子、既存樹木、電源、wifiがあ  
り、「あいだ」の時間にだれでも使えます。

「まちの修理場」  
（交流）（暮らし）  
DIY工作室。隠岐の木材を使った  
DIY教室など。まちに散りはめら  
れたストリートアニチュアの  
修理もできる。

「みんなの駐車場」  
（景観）（交通）（暮らし）  
（商業）  
だれでも使える駐車場。  
まわりに樹木を植えて  
ベンチを置きます。

樹木ライトアップ

「歩ける道づくり」  
（交通）  
町道126号線は歩行者専  
用にします。

イメージ  
「ライブ学習ホール」  
（交流）  
全天候型の開放的な交流ホールで、だれで  
もゆったり休憩することができます。  
隠岐騒動やしげさ節などの映像・グラフィック  
やまち少きの事前学習映像を流します。  
大階段の観客席があり、しげさ節の実演や  
隠岐相撲の開催、ピアノなど楽器を使った  
音楽ステージも可能です。

シ  
全体配置計画

「港のプロムナード」  
（景観）（交通）（暮らし）  
歩道は障害物のないフラッ  
トな路面に改修し、新設建  
物セットバック、電柱地中  
化、フラッグを掲げられる  
照明等により、臨港道路に  
観光地の顔をつくります。

「交差点の賑わい演出」  
（商業）（交流）（暮らし）  
（空き家活用）  
1階部分は既存カフェ  
を残して屋外テラスに  
改修して、交差点に  
にぎわいが生まれるよう  
に整備します。  
空き家となっている2  
階と3階は住居に改修  
します。

ハイボール照明

# 景観形成の方針

## わかりやすく記憶に残る景観を形成

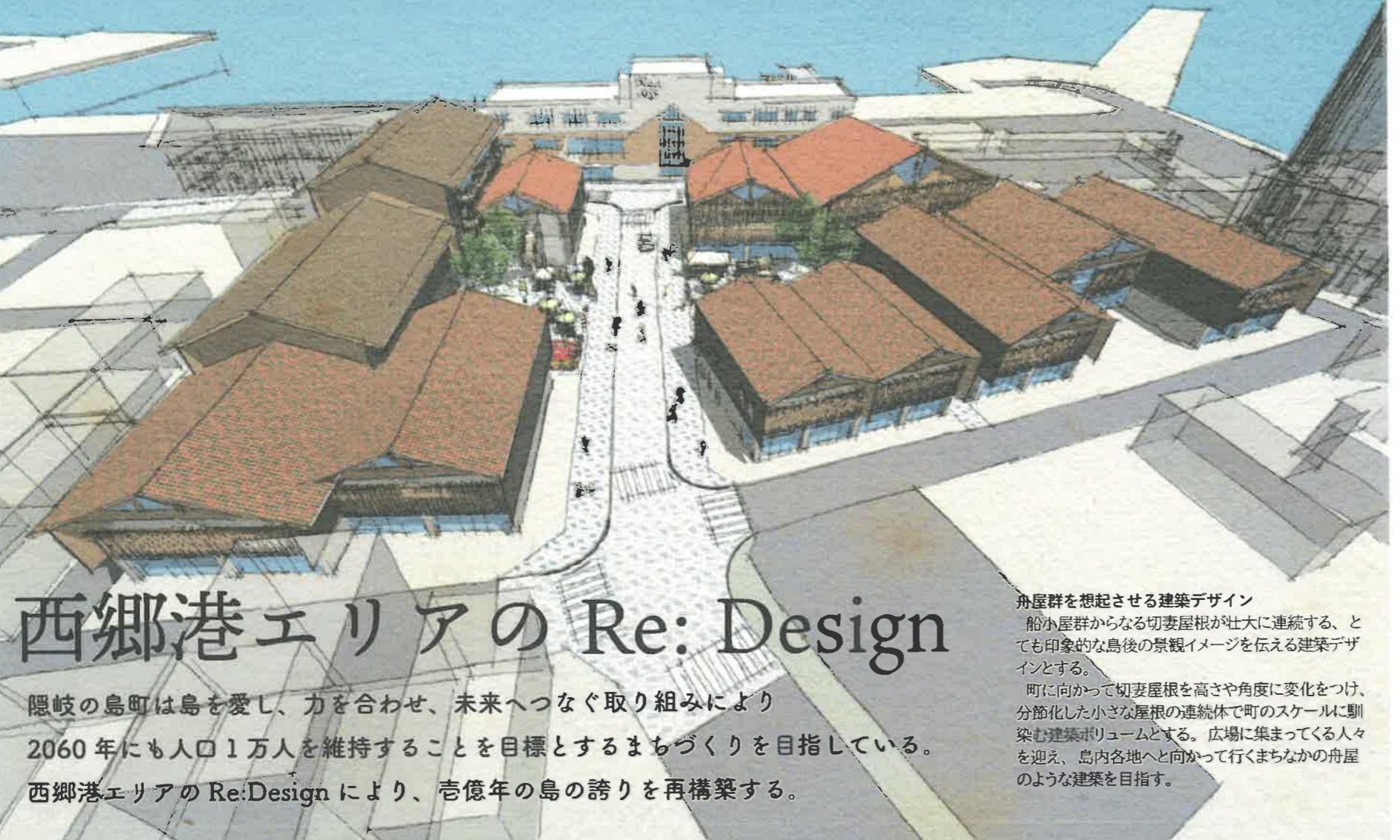
- ・空間の軸となるストリートやランドマーク、回遊できる路地や界隈などの特徴を活かし、認識しやすく記憶に残る景観を形成する。
- ・島内のまちなかや集落に見られるヒューマンな空間スケールや、都万の船小屋群の連続する切妻屋根など地域性を表現する。

## 空間体験を豊かにする多様な眺望

- ・海や船をパノラミックに眺望できる視点場を整備する。
- ・通りの先や路地の隙間から海や山、丘陵が見えるヴィスタを演出する。
- ・ターミナルファサードや出雲大社分祀など視線を受け止めるアイストップを活かす。
- ・台地上の西郷港園から眺望される瓦屋根の連なる風景を創出する。

## グランドレベルのにぎわいの可視化

- ・通りや広場のグランドレベルで建物内のアクティビティを表出できる軒先縁側空間を整備する。
- ・シェアドスペース化によるストリートパークとしての通り景観を生み出す。
- ・来訪者を迎える印象的なファサードや主要交差点を演出する。



# 西郷港エリアの Re: Design

隠岐の島町は島を愛し、力を合わせ、未来へつなぐ取り組みにより

2060年にも人口1万人を維持することを目指とするまちづくりを目指している。

西郷港エリアの Re:Design により、壹億年の島の誇りを再構築する。

## 壹億年の島の誇りを再構築する

### 西郷玄関口地域全体で島内外からの多様な人を迎える

西郷玄関口地域全体で、島内外からの多様な人を迎える機能と空間を実現し、U/I/Tターンや移住の促進、ワーケーションなども含む関係人口の増加につなげていく。

### 西郷玄関口地域のまちづくりのトリガーとする

西郷港周辺地区（ターミナルエリア）は、西郷玄関口地域における要の位置にある。島外と島内各地を結ぶ交通の拠点であるものの、活力の再生やさらなる魅力づけが必要になっている。西郷港周辺地区において、島外からの人を迎える、島内住民が楽しめ、子育て支援の核となる機能と空間を整備し、西郷玄関口地域のまちづくりに広げていく。

### フロートビジョン（※）を提示しつつプラットフォームをつくる

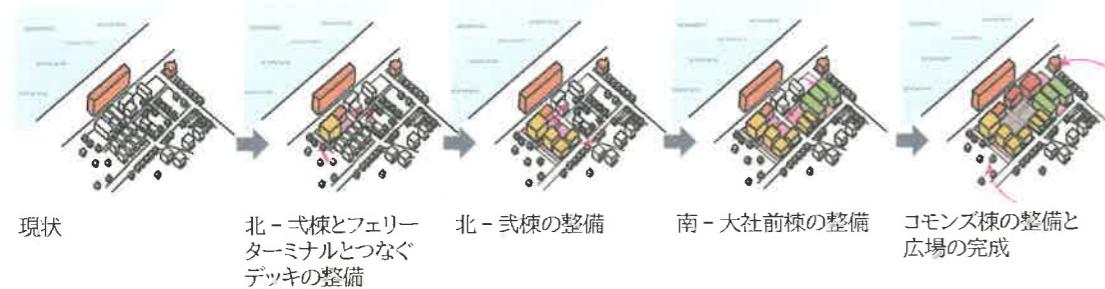
西郷港周辺地区のまちづくりを実現化していくためには、目指すべきビジョンを共有しつつ、多様な人々の参画を促しながらまちの担い手を作っていくことが求められる。骨格となる空間基盤や確保する機能の枠組みを柔らかなフロートビジョンとして提示し、島内住民をはじめ多様な人々による議論や実践の場を生むプラットフォームをつくり、マネジメントにつなげていく。

※フロートビジョン：固定的ではなく、関係者間で意識を共有し、議論の契機とするやわらかなビジョン

## まちの成長

### 段階整備の考え方

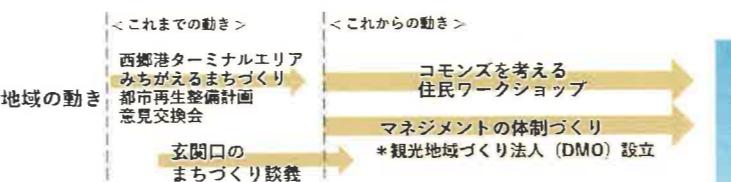
・地区内居住者の受け皿を確保しつつ、共同化建築物と広場を段階的に整備する。



## まちの運営

### 西郷港周辺地区的整備

- ・フロートビジョンを拠り所しながら、コモンズ機能のあり方を考え、防災意識を高める住民ワークショップを通じ、マネジメントの担い手となる人材を育成する。
- ・将来的にはDMO（観光地域づくり法人）の活動との連携を図る。



### （住民のワークショップによる広場の検討）



T-CUBEによるまちづくりワークショップ  
(小学生たちへの出前授業の応用)  
資料／JIA 金沢大会  
2015発表資料

### 島内への波及

- ・広場を中心としたコモンズの核を形成しつつ、生活利便性の向上によりエリアの価値高め、島内の拠点館との連携を強化することで持続可能な島づくりにつなげる。



## 既存施設と屋根瓦を活用した景観シークエンスの創出

- 1) 既存フェリーターミナルの外壁には、町の景観イメージを象徴させる切妻屋根のデザインを階段室の頂部に設ける。又街路に沿って地場産杉を用いたルーバー状の化粧を設置し、ジョゲートウェイと連なる夜間照明を計画する。2階レベルに大開口を設け、スカイデッキをつなげることで、海と広場、まちの繋がりを意識させる動線を確保する。



- 2) 屋根には島根産石州瓦を採用し、建物用途に応じて彩り来待瓦の赤、黒、茶の3色を単色・混合を使い分け、多彩な夢の町並みを形成する。



彩り来待瓦

## 建築ボリューム

旅行客が出て来るターミナルと西郷の町に向かって切妻屋根を高さや角度に変化をつなげながら、分節化された小さな屋根の連続体で町のスケールに馴染ませた景観を創出していく。

新しい広場に集まつくる人々を迎えて、島内各地へと向かって行くまちなかの舟屋のような建築を目指す。



# 交通

## シェアドスペースと路地による人を中心の街区構成

- ・広場整備と併せて国道485号及び風待ち通りをシェアドスペース化（※）歩車共存のみとする。
- ・街区内の区画道路は歩行者専用化し、路地空間を形成する。
- ・将来の完全歩行者専用化に向け、シェアドスペース内の車両交通を排除する社会実験も行う。

※広域の交通網は維持可能、3,000台／12h程度の交通量は処理可能なことから実現可能と判断。

## 公共交通機能の集約化とターミナル通路の限定的対面通行化

- ・バスとタクシーの乗降場をターミナル前に集約し、分かりやすさと乗換利便性を確保する。
- ・ターミナル通路をバス限定で南北両方向の対面通行を可能とし、路線バスのルートを大きく変えることなくシェアドスペース内への進入を回避する。

## グリーンスローモビリティの導入

- ・西郷玄関口地域内や島内各地との交通手段として、グリーンスローモビリティを導入し、地区内にポートを設置する。



# 交流

## 人々の交流を生むコモンズ

- ・人々の交流を生む仕掛けとしてまちなかコモンズ広場と広場に面してコモンズ機能（※）を導入する。
- ・広場に面して集客性のある賑わい機能を表出させるとともに、来訪者の活動の起点と住民活動の拠点としての性格を併せ持つコモンズ機能（※）を配置する。

※コモンズ機能：カフェ・バーブ、多目的スペース、図書コーナー、情報ポケット、シェアキッチン、ワークショップスペース等

## 住民参画によるまちへの誇りの再構築

- ・人々が気楽に交流し、楽しめる賑わいづくりを目指し、地区の再生プロセスにおける住民参画により人育ての拠点となる場を育む。
- ・空間整備や導入機能の検討過程においても住民参画により、検討過程の活動を記録、まちの記憶を残すことでもちへの誇りを再構築していく。

# 暮らし・居住

## 住み続けられる環境

- ・安全・安心で誇りを持って住み続けられるよう、魅力ある住宅と災害時の避難にも配慮したまちの構造をつくる。
- ・コモンズ機能の自由度を高めることにより、利便性の向上や人々のアクティブな生活を導く。

## 島外の人の滞在や定住を受け入れる機能と空間

- ・UIJターンなどによる移住や多拠点居住、期間限定お試し居住などの受け皿となる機能と空間を整備する。
- ・定住しないものの、継続的に島と関係を保ち続ける関係人口を増やすため、島の魅力を発信しつつ、定期的な訪問やワーケーションなど短期的な滞在に対応できる機能と空間を整備する。

# 商業・サービス・宿泊

## 観光及び近隣需要に対応する核的商業機能

- ・観光客の需要を取りこみながら、地域の近隣需要に対応する生鮮食料品を中心とする店舗（あんき市場機能を拡充）を広場に面して配置する。

・地区内の既存店舗が再入居できる店舗を確保する。

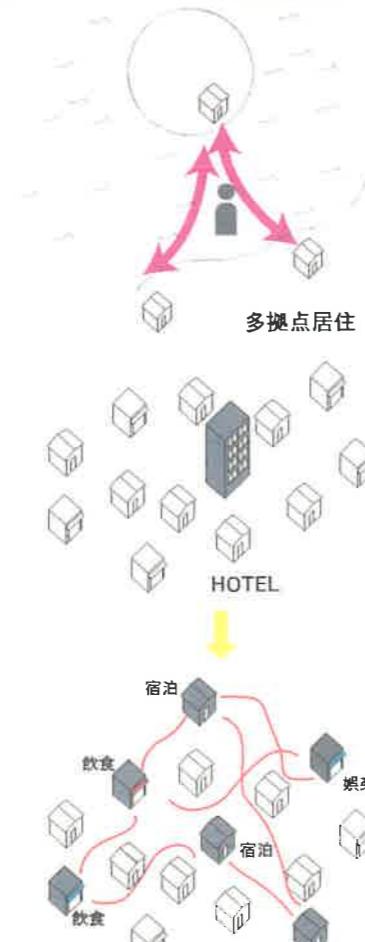
## 新たな「風」を呼び込む仕掛け

- ・周辺の店舗による新たな展開や若い起業家などのチャレンジの場、インキュベートの場となるチャレンジショップ、ゴーストキッチン（流しの調理人のための店）、コワーキングスペースなどを確保する。
- ・地区内で育った新たな動きが周辺の商店街における空き店舗の活用や既存店舗のリノベーションなど、新たな動きへと波及し、展開していくことを仕組む（※）。

※リノベーションスクールの実施や、「かっぱ大明神」周辺での新たな店舗展開のような小ロットのゾーン形成など個性を活かした再生を誘導するガイドラインづくりなどをイメージ。

## 長期滞在も可能な宿泊機能を確保する

- ・地区内に長期滞在も可能なゲストハウスを確保するとともに、周辺には滞在中の暮らしを支える食事や買い物、ワークスペースなどの機能を整備する。



島全体で受入  
町内の商業事業者や空き家を活用した  
観光客の受入

# にぎわいの演出

## まちなかコモンズ広場における賑わいの演出

- ・広場に面してあんき市場やカフェ、飲食店等を配置し、軒下や広場空間で自由に飲食できるようにする。



広場のにぎわいイメージ



あんき市場の機能拡充イメージ



メモリアルペイブのイメージ

## イベント時にはシェアドスペースを歩行者専用化し、広場と一体化した利用ができるようにする。

- ・広場の整備では住民参加による施工のイベント化、また広場の一角には住民参画の記憶として舗装材に参加した住民の名前や絵などを刻む（メモリアルペイブ）。

## コモンズ機能の連携

- ・フェリーターミナル、ポートプラザ（※）、及び新たに整備するコモンズ棟にはコモンズ機能を配置し、相互に連携を図る。

※先行してポートプラザ内に一部のコモンズ機能を整備、コモンズ棟の整備に合わせてポートプラザ内の機能を移転・充実し、機能移転後は宿泊客や来訪者のためのコワーキングスペースなどに再整備することを想定。

### [コモンズ機能のイメージ]

- ・カフェ・バーブ：気楽なお茶、おしゃべりの場
- ・多目的スペース：イベント、休憩、読書、ワークスペースなどに利用
- ・図書コーナー：島の歴史、旅などに限定した図書
- ・情報ポケット：情報ツールを活用～電子図書、まちづくりの記録の蓄積、情報発信～など多様な場